RPSJ NETWORK

Railway Preservation Society of Japan

日本鉄道保存協会　総会 2016

2016（平成 **28**）年　**10** 月 **20** 日（木）～**21** 日（金）

博物館明治村（愛知県犬山市）
京都鉄道博物館（京都市下京区）

博物館明治村

はじめに

1991（平成3）年に日本鉄道保存協会が生まれてから25 年、じつに四半世紀の歳月を経ました。発足当初は車両の動態保存をしている14 団体でしたが、その後有力な鉄道博物館、意欲にあふれる地方自治体、ボランティアのグループなども加わり、多彩な顔ぶれがそろってきました。現在の会員数は50 団体まであと少し、まずはこれまでの発展を皆様とともに祝いたいと思います。

昨年は世界保存鉄道協会WATTRAIN の第2 回総会がさいたま市と東京で開かれ、またWATTRAIN 出席の各国代表をパネリストに迎えて鉄道遺産の保存活用に関するシンポジウムを開催し、国際交流の実をあげることができました。日本鉄道保存協会にとっては初めての本格的な国際活動でしたが、多くの会員団体のご協力を得て成果をあげることができました。会場を提供してくださり、また見学先として万全のご尽力をくださった会員の皆様方に改めて謝意を表しますとともに、多大のご支援を頂いたJR 東日本、JR 東海、JR 西日本、東武鉄道の各社に心からお礼申し上げます。

先の見えにくくなった時代にあって、いま日本人は、経済の成長と繁栄に期待をつなぎながらも、他方では内面的な精神の安定と文化の豊かさを求めています。日本の近代化を牽引し、戦後復興と高度成長を支えた鉄道の遺産を守り、その価値を後世に伝えようとする私たちの活動は、日本人の心の底にある欲求と願いに添うものであり、私たちは自信をもって理解者と支援者を増やす努力を続けたいと思います。

創立25 周年を迎えた日本鉄道保存協会にとって最大の課題は、第一に組織と財政基盤の強化であり、第二に若返りであると言えます。これまでは会員相互の交流に重点を置いたネットワークという緩やかな組織でしたが、この機会に向こう一年間、会員の皆様と議論を重ね、かねてからの課題である法人化をはかり組織基盤を強化するとともに、組織を担う中心となる陣容の若返りを追求し、新たな方向への第一歩にしたいと思います。

2016（平成28）年10 月20 日

日本鉄道保存協会 代表幹事団体
公益財団法人交通協力会 会長
菅　　建彦

日 本 鉄 道 保 存 協 会
2016 年度総会・見学会プログラム

日　　程　　2016 年 10 月 20 日（木）～21 日（金）

開 催 地

総　会　　博物館明治村（愛知県犬山市）
見学会　　博物館明治村 ／ 京都鉄道博物館（京都市）
交流会　　名鉄ニューグランドホテル（名古屋市）
宿　泊　　名古屋市内で各自手配

10 月 20 日（木）

11：00　博物館明治村　正門左側にて受付開始（12：30 まで園内自由見学）
13：00　総　会（会場：三重県庁舎 2 階）
- 2015 年度事業報告（案）
- 2015 年度収支報告（案）
- 2016 年度事業計画（案）
- 2016 年度収支予算（案）
- 一般社団法人日本鉄道保存協会の設立について
- 顧問の新任について
- 2017 年度総会・見学会開催地（案）

13：30　開催地報告（同会場）
- 博物館明治村　所長　　吉田　善一郎 氏

14：00　事例報告（同会場）
- 遠軽町丸瀬布総合支所産業課 係長　上戸　智仁　氏
- 小坂鉄道保存会 会長　千葉　裕之　氏
- 新潟市新津鉄道資料館 副館長　水澤　喜代志 氏
- 東武博物館 名誉館長　花上　嘉成　氏

15：00　園内見学
- SL 2 両の特別運行
  名古屋駅発 15：25 ― 東京駅着　15：30
  東京駅発　15：40 ― 名古屋駅着 15：45
- 運行後、SL の解説
- 自由見学

16：30　名鉄バスセンター・栄行バス発車（正門前 2 番乗場／運賃 960 円）
16：50　犬山駅東口行バス発車（正門前 1 番乗場／運賃 420 円）
17：10　犬山駅東口行バス発車（正門前 1 番乗場／運賃 420 円／1 台増便予定）

※交流会会場までの間は、以上のバス等をご利用の上、各自で移動してください。

19：00　交流会開始（会場：名鉄ニューグランドホテル 7 階　椿の間）
21：00　交流会終了

10 月 21 日（金）

13：15　京都鉄道博物館　正門にて集合

※京都鉄道博物館までの間は、各自で移動してください。

13：30　京都鉄道博物館による概要説明（約 30 分）
14：00　各自で見学（入館料は JR 西日本のご厚意で無料）
16：00 頃　自由解散

以　上

日本鉄道保存協会（RPSJ）2016年度総会　出欠一覧表

2016.10.14現在

資　格	所　属	役　職	氏　名	総会	交流会	京都
顧　問	東京学芸大学	名誉教授	青木　栄一	欠　席		
顧　問	東京女子大学	名誉教授	小池　　滋	欠　席		
顧　問	東武博物館	名誉館長	花上　嘉成	○	○	○
顧　問	公益財団法人　交通協力会	会　長	菅　　建彦	○	○	○
顧　問	ネコ・パブリッシング	編集局長	名取　紀之	○	○	○
顧　問	元･北海道旅客鉄道株式会社		高橋　一宇	欠　席		
正会員	遠軽町（旧丸瀬布町）	丸瀬布総合支所産業課　係長	上戸　智仁	○	○	○
正会員	陸別町商工会（ふるさと銀河線りくべつ鉄道）	理　事	山本　周二	○	○	○
正会員	陸別町商工会（ふるさと銀河線りくべつ鉄道）		熊谷　亨介	○	○	○
正会員	NPO法人　ひがし大雪アーチ橋友の会			欠　席		
正会員	三笠市	企画経済部商工観光課係長	猿田　正人	○	○	○
正会員	三菱大夕張鉄道保存会			欠　席		
正会員	北海道旅客鉄道株式会社（JR北海道）			欠　席		
正会員	NPO法人　北海道鉄道文化保存会			欠　席		
正会員	一般社団法人　南部縦貫レールバス愛好会			欠　席		
正会員	七百レールファンクラブ	副会長	野田　　悟	○	○	○
正会員	小坂鉄道保存会	会　長	千葉　裕之	○	○	○
正会員	小坂鉄道保存会	企画局長	長渕　勇一	○	○	○
正会員	小坂鉄道保存会	特別役員	吉野　幸裕	○	○	○
正会員	小坂鉄道保存会		吉野　千鶴子	○	○	○
正会員	小坂鉄道保存会		大谷　清次	○	○	○
正会員	栗原市			欠　席		
正会員	真岡線SL運行協議会			欠　席		
正会員	NPO法人　足尾歴史館	トロッコ部　広報担当	岡本　憲之	○	○	○
正会員	NPO法人　足尾歴史館		角田　　聡	○	○	○
正会員	鹿島鉄道保存会	副代表	長津　博樹	○	×	×
正会員	鹿島鉄道保存会	副代表	野澤　秀幸	○	×	×
正会員	鹿島鉄道保存会	参　与	木瀬　若桜	○	○	×
正会員	鉾田駅保存会	理　事	川津　重夫	○	○	○
正会員	碓氷峠鉄道文化むら			欠　席		
正会員	デハ3499号車保存会	代　表	日暮　成一	○	×	×
正会員	日本工業大学			欠　席		
正会員	秩父鉄道株式会社			欠　席		
正会員	西武鉄道株式会社			欠　席		
正会員	東日本旅客鉄道株式会社（JR東日本）			欠　席		
正会員	公益財団法人　東日本鉄道文化財団			欠　席		
正会員	一般財団法人　東武博物館		花上　嘉成	顧問欄に記載		
正会員	公益財団法人　日本ナショナルトラスト	事務局次長	根岸　悦子	○	○	×
正会員	公益財団法人　交通協力会	会　長	菅　　建彦	顧問欄に記載		
正会員	横浜市電1156号保存会		青木　　渉	○	×	×
正会員	新潟市新津鉄道資料館	副館長	水澤　喜代志	○	○	○
正会員	上松町（赤沢森林鉄道）			欠　席		
正会員	虹の郷（一般財団法人　伊豆市振興公社）			欠　席		
正会員	大井川鐵道株式会社	鉄道部次長	石川　寛之	○	○	×
正会員	東海旅客鉄道株式会社（JR東海）リニア・鉄道館	館　長	天野　満宏	○	○	○
正会員	博物館明治村（公益財団法人　明治村）	所　長	吉田　善一郎	○	×	×
正会員	博物館明治村（公益財団法人　明治村）	主　任	近藤　雅隆	×	○	×
正会員	博物館明治村（公益財団法人　明治村）	主任補佐	高木　基秀	○	○	○
正会員	長浜鉄道スクエア（公益社団法人　長浜観光協会）		梅園　いつ子	○	×	×
正会員	貨物鉄道博物館			欠　席		
正会員	西日本旅客鉄道株式会社（JR西日本）	広報部（鉄道文化）	廣田　琢也	○	○	○
正会員	公益財団法人　交通文化振興財団			欠　席		

資　格	所　属	役　職	氏　名	総会	交流会	京都
正会員	加悦SL広場（宮津海陸運輸株式会社）	管理課長	柴田　万喜也	○	○	○
正会員	加悦SL広場（宮津海陸運輸株式会社）		塩崎　政広	○	○	○
正会員	NPO法人　加悦鐵道保存会	副理事長	中井　喜宏	○	○	○
正会員	NPO法人　加悦鐵道保存会	事務局	水町　　健	○	○	○
正会員	NPO法人　加悦鐵道保存会	広報局	岡本　健作	○	○	○
正会員	片上鉄道保存会		森岡　誠治	欠　席		
正会員	若桜駅を元気にする会	幹　事	矢部　康樹	○	○	○
正会員	NPO法人　市民文化財ネットワーク鳥取			欠　席		
正会員	山口線SL運行対策協議会			欠　席		
正会員	西条市	観光交流センター副館長	佐竹　　浩	○	○	○
正会員	西条市	観光物産課副課長	河端　孝志	○	○	○
正会員	馬路村			欠　席		
正会員	九州旅客鉄道株式会社（JR九州）			欠　席		
正会員	北九州線車両保存会	代　表	手嶋　康人	○	○	○
正会員	北九州線車両保存会		毎熊　　晃	○	○	○

賛助会員	株式会社ネコ・パブリッシング			顧問欄に記載		
賛助会員	株式会社鉄道ジャーナル社			欠　席		
賛助会員	日本鉄道写真作家協会		猪井　貴志	○	○	○
賛助会員	日本鉄道写真作家協会		森　　誠	○	○	○
賛助会員	有限会社　レイルマンフォトオフィス	代表取締役	山﨑　友也	○	○	○
賛助会員	北陸重機工業株式会社			欠　席		
賛助会員	株式会社JTBパブリッシング	シニアオフィサー	河合　桃子	○	○	○
賛助会員	有限会社鉄道フォーラム	代表取締役	伊藤　博康	○	○	×
賛助会員	株式会社片上鉄道		森岡　直子	欠　席		
賛助会員	株式会社日本旅行	鉄道プロジェクト	瀬端　浩之	○	○	×
賛助会員	株式会社トレインプラン	代表取締役	太田　裕二	○	○	○

友の会会員			赤羽　　誠	○	○	○
友の会会員			阿部　　豊	○	○	×
友の会会員	イモンコーポレーション	代表取締役	井門　義博	○	○	×
友の会会員			岩野　弘一	○	○	○
友の会会員			遠藤　哲夫	○	○	○
友の会会員	四国電設工業株式会社	監査役	加藤　圭哉	○	○	○
友の会会員	東京地下鉄株式会社		倉繁　　聡	欠　席		
友の会会員			柴山　純一	欠　席		
友の会会員	清水薫　レイルウェイフォトオフィス	代　表	清水　　薫	○	○	○
友の会会員	トラベルライター		白川　　淳	○	○	○
友の会会員			関田　克孝	欠　席		
友の会会員			橘　　秀幸	○	○	○
友の会会員			田中　光一	欠　席		
友の会会員			田中　浩史	○	○	○
友の会会員			長野　光芳	○	○	○
友の会会員	西武鉄道社友会	事務局長	西尾　恵介	○	○	×
友の会会員			野田　智毅	○	○	×
友の会会員			藤井　　修	欠　席		
友の会会員			水野　弥彦	欠　席		

オブザーバー			神沢　　順	○	○	○
オブザーバー	ジェイアール四国企画株式会社	営業第2部　部長	松本　新一	○	○	○
オブザーバー	四国旅客鉄道株式会社	総合企画本部担当部長	長戸　正二	○	×	×
オブザーバー	法政大学経営学部	専任講師	二階堂　行宣	○	○	×
オブザーバー	株式会社ヤマネ	技術部　課長	高見　　浩	○	○	○

事務局	日本鉄道保存協会（地域遺産プロデューサー）	事務局長	米山　淳一	○	○	○
事務局	日本鉄道保存協会	事務局	佐々木　雅子	○	○	○

日本鉄道保存協会　会員名簿

2016.10.14 現在

＜凡　例＞

番 号　　団　体　名 〒　　団体所在地　／　連絡先住所 電話番号　／　Fax 番号 団体代表者名 RPSJ 担当者名（☆）

正 会 員

01　遠軽町（旧丸瀬布町）

〒099-0203　北海道紋別郡遠軽町丸瀬布中町 115-2
遠軽町役場丸瀬布総合支所　産業課
Tel　0158-47-2213　　Fax　0158-47-2128

町　長　　佐々木　修一
係　長　　上戸　智仁（☆）

02　陸別町商工会（ふるさと銀河線りくべつ鉄道）

〒089-4300　北海道足寄郡陸別町字陸別原野基線 69-1
Te1　0156-27-2244　　Fax　0156-27-2791

会　長　　石橋　　強
副会長　　山本　周二
事務局長　　杉本　武勝（☆）

03　NPO 法人　ひがし大雪アーチ橋友の会

〒080-1408　北海道河東郡上士幌町上士幌東 3 線 239
Tel　01564-2-3385　　Fax　01564-2-3682

会　長　　那須　襄太郎
事務局長　　角田　久和（☆）

04　三笠市

〒068-2192　北海道三笠市幸町 2
三笠市役所商工観光課　商工観光係
Tel　01267-2-3997　　Fax　01267-2-7880

市　長　　西城　賢策
主　事　　中谷　優輝（☆）

05　三菱大夕張鉄道保存会

〒068-0855　北海道江別市大麻宮町 4-6
Tel　011-387-4783

会　長　奥山　道紀
事務局長　今井　一郎（☆）

06　北海道旅客鉄道株式会社

〒060-8644　北海道札幌市中央区北 11 条西 15-1-1
Tel　011-700-5785　Fax　011-700-5786

代表取締役社長　島田　修
運輸部運用課副課長　川瀬　貴之（☆）

07　NPO 法人　北海道鉄道文化保存会

〒047-0041　北海道小樽市手宮 1-3-6
小樽市総合博物館内
Tel　0134-61-7777

代表理事　飯田　勝幸
専務理事　清水　道代（☆）

08　一般社団法人　南部縦貫レールバス愛好会

〒133-0051　東京都江戸川区北小岩 2-14-2-111 号
Tel　03-3672-7709

代表理事　星野　正博（☆）

09　七百レールファンクラブ

〒336-0926　埼玉県さいたま市緑区東浦和 7-4-12-103
Tel　070-6528-2629

会　長　斎藤　正
副会長　野田　悟（☆）

10　小坂鉄道保存会

〒017-0202　秋田県鹿角郡小坂町小坂鉱山古川 20-9
小坂鉄道レールパーク気付
Tel　0186-25-8890　Fax　0186-29-2002

代　表　千葉　裕之
総務局長　亀沢　修（☆）

11　栗原市

〒987-2252　宮城県栗原市築館薬師 1-7-1
栗原市役所企画部企画課
Tel　0228-22-1125　Fax　0228-22-0313

市　長　佐藤　勇
企画部企画課　鈴木　敬（☆）

12　真岡線 SL 運行協議会

〒321-4415　栃木県真岡市下籠谷 4412
Te1　0285-82-9151　　Fax　0285-82-9152

会　長（真岡市長）　井田　隆一
事務局長　中山　文行
係　長　上野　勇人（☆）

13　NPO 法人　足尾歴史館

〒321-1523　栃木県日光市足尾町松原 2825
Tel・Fax　0288-93-0189

館　長　長井　一雄
トロッコ部　岡本　憲之（☆）

14　鹿島鉄道保存会

〒113-0033　東京都文京区本郷 5-25-16 石川ビル 11 階
株式会社パレア
Tel　03-5802-2755　　Fax　03-3818-2700

代　表　加藤　三千尋（☆）

15　鉾田駅保存会

〒310-0001　茨城県水戸市上河内町 162
Tel・Fax　029-239-6735

理　事　川津　重夫（☆）

16　碓氷峠鉄道文化むら（一般財団法人　碓氷峠交流記念財団）

〒379-0301　群馬県安中市松井田町横川 407-16
Te1　027-380-4163　　Fax　027-380-4111

代表理事　上原　有一
館　長　飯沼　　勲
事務局長　瀬川　　広（☆）

17　デハ 3499 号車保存会

〒331-0802　埼玉県さいたま市北区本郷町 313　蓮見住宅 C-3

代　表　日暮　成一（☆）

18　日本工業大学

〒345-8501　埼玉県南埼玉郡宮代町学園台 4-1
日本工業大学工業技術博物館
Tel　0480-33-7545　　Fax　0480-33-7570

学　長　成田　健一
館　長　松野　建一
講師・学芸員　丹治　　明（☆）

19　秩父鉄道株式会社

〒360-0033　埼玉県熊谷市曙町 1-1
Tel　048-523-3337　　Fax　048-526-0551

代表取締役社長　　大谷　隆男
車両課長　　根津　泰生（☆）

20　西武鉄道株式会社

〒359-8520　埼玉県所沢市くすのき台 1-11-1
Te1　042-926-2283　　Fax　042-926-2239

代表取締役社長　　若林　　久
車両部車両課長　　山下　和彦（☆）

21　東日本旅客鉄道株式会社

〒151-8578　東京都渋谷区代々木 2-2
Tel　03-5334-1352

代表取締役社長　　冨田　哲郎
総務部主席　　三山　勇一（☆）

22　公益財団法人　東日本鉄道文化財団

〒151-8578　東京都渋谷区代々木 2-2-2
JR 東日本本社ビル 11 階
Te1　03-5334-0623　　Fax　03-5334-0624

理事長　　清野　　智
鉄道博物館学芸員　　五十嵐　健一（☆）

23　一般財団法人　東武博物館

〒131-0032　東京都墨田区東向島 4-28-16
Tel　03-3614-8811　　Fax　03-3614-8814

会　長　　根津　嘉澄
理事・名誉館長　　花上　嘉成
専務理事・館長　　山田　智則
管理課長　　山澤　晴行（☆）

24　公益財団法人　日本ナショナルトラスト

〒102-0083　東京都千代田区麹町 4-5　海事センタービル 4 階
Te1　03-6380-8511　　Fax　03-3237-1190

会　長　　梅崎　　壽
事業課　　梅宮　路子（☆）

25　公益財団法人　交通協力会

〒100-0005　千代田区丸の内 3-4-1　新国際ビル 903
Tel　03-6269-9808　　Fax　03-6269-9809

会　長　　菅　　建彦（☆）

26　横浜市電 1156 号保存会

〒231-8445　神奈川県横浜市中区太田町 2-23　神奈川新聞社文化部
Tel　090-9015-3707

代　表　齊藤　大起（☆）

27　新潟市新津鉄道資料館

〒956-0816　新潟県新潟市秋葉区新津東町 2-5-6
新潟市文化スポーツ部歴史文化課　新津鉄道資料館
Tel　0250-24-5700　Fax　0250-25-7808

館　長　帆苅　正悟
副館長　水澤　喜代志（☆）

28　上松町（赤沢森林鉄道）

〒399-5603　長野県木曽郡上松町駅前通り 2-13
上松町役場産業観光課
Tel　0264-52-4804　Fax　0264-52-1038

町　長　田上　正男
商工観光係　横内　義広（☆）

29　伊豆修善寺　虹の郷（一般財団法人　伊豆市振興公社）

〒410-2416　静岡県伊豆市修善寺 4279-3
Te1　0558-72-7222　Fax　0558-72-7133

理事長　鈴木　健範
園内交通課　秋山　忠久（☆）

30　大井川鐵道株式会社

〒428-8503　静岡県島田市金谷東 2 町目 1112-2
Tel　0547-45-4111　Fax　0547-45-4115

代表取締役社長　前田　　忍
鉄道部　石川　寛之（☆）

31　東海旅客鉄道株式会社（リニア・鉄道館）

〒455-0848　愛知県名古屋市港区金城ふ頭 3-2-2
リニア・鉄道館
Tel　052-389-6100　Fax　052-389-6101
代表取締役社長　柘植　康英
館　長　天野　満宏（☆）

32　公益財団法人　博物館明治村

〒484-0000　愛知県犬山市内山 1 番地
Tel　0568-67-0314　Fax　0568-67-0358

館　長　中川　　武
所　長　吉田　善一郎
主　任　近藤　雅隆（☆）

33　長浜鉄道スクエア（公益社団法人　長浜観光協会）

〒526-0057　滋賀県長浜市北船町 1-41
Tel　0749-63-4091　　Fax　0749-64-0396

館　長　　藤田　常信
担　当　　梅園　いつ子（☆）

34　NPO 法人　貨物鉄道博物館

〒510-8014　三重県四日市市富田 3-22-83
三岐鉄道株式会社内
Tel　059-364-2141　　Fax　059-364-2142

館　長　　吉岡　心平（☆）
理　事　　北川　　潤

35　西日本旅客鉄道株式会社

〒530-8341　大阪府大阪市北区芝田 2-4-24
Tel　06-6375-2176　　Fax　06-6376-6053

代表取締役社長　　来島　達夫
広報部　　杉山　正二（☆）
廣田　琢也（☆）

36　公益財団法人　交通文化振興財団

〒531-0011　大阪市淀川区西中島 7-1-26　オリエンタル新大阪ビル 201
Tel　06-6309-5113　　Fax　06-6309-5114

理事長　　来島　達夫
専務理事　　三浦　英之
学芸員　　島　　崇（☆）

37　加悦 SL 広場（宮津海陸運輸株式会社）

〒629-2422　京都府与謝郡与謝野町滝 941-2
Tel　0772-42-3186　　Fax　0772-42-5300

代表取締役社長　　小野寺　俊博
管理課長　　柴田　万喜也（☆）

38　NPO 法人　加悦鐵道保存会

〒612-8485　京都府久我森の宮町 4-144
Tel　090-3829-4000

理事長　　吉田　博一（☆）

39　片上鉄道保存会

〒576-0034　大阪府交野市天野ケ原町 2-39-2
Tel　0868-62-7155（柵原鉱山資料館）

代表幹事　　森岡　誠治（☆）

40　若桜駅を元気にする会

〒680-0792　鳥取県八頭郡若桜町若桜 801-5
若桜町役場ふるさと創生課
Tel　0858-82-2231　　Fax　0858-82-0134

会　長　　藤原　源市
事務局　　谷本　　剛（☆）

41　NPO 法人　市民文化財ネットワーク鳥取

〒680-0022　鳥取県鳥取市西町 1-106
Tel　0857-26-1151　　Fax　0857-22-4103
理事長　　渡辺　一正
事務局長　　太田　　縁（☆）

42　山口線 SL 運行対策協議会

〒753-8501　山口県山口市滝町 1-1
山口県観光スポーツ文化部　観光プロジェクト推進室
Tel　083-933-3170　　Fax　083-933-3179

会　長　　阿野　徹生
主任主事　　小嶋　洋一（☆）

43　西条市（鉄道歴史パーク　in SAIJO）

〒793-0030　愛媛県西条市大町 798-1
西条市観光交流センター
Tel　0897-52-1446　　Fax　0897-53-6200

市　長　　青野　　勝
観光交流センター　　佐竹　　浩（☆）

44　馬路村

〒781-6202　高知県安芸郡馬路村魚梁瀬 10-11
馬路村役場魚梁瀬支所　やなせ森林鉄道運営委員会
Tel　0887-43-2211　　Fax　0887-43-2208

村　長　　上治　堂司
魚梁瀬支所長　　伊吹　卓哉（☆）

45　九州旅客鉄道株式会社

〒812-8566　福岡県福岡市博多区博多駅前 3-25-21
Tel　092-474-2541　　Fax　092-474-3898

代表取締役社長　　青柳　俊彦
広報部　部長代理　　井下　普樹（☆）

46　北九州線車両保存会

〒818-0071　福岡県筑紫野市二日市西 3-12-1
Tel　080-6412-1666

代　表　　手嶋　康人（☆）

賛 助 会 員

01　株式会社ネコ･パブリッシング

〒153-8545　東京都目黒区下目黒 2-28-18 目黒山手通ビル
Te1　03-5745-7813

Rail Magazine 編集長　名取　紀之（☆）

02　株式会社鉄道ジャーナル社

〒102-0072　東京都千代田区飯田橋 4-8-6　日産ビル 3F
Te1　03-3264-1891　　Fax　03-3265-3597

編集長　　宮原　正和（☆）

03　日本鉄道写真作家協会

〒102-0072　東京都千代田区飯田橋 3-4-3　エレガンス飯田橋 504
レイルマンフォトオフィス内

会　長　　猪井　貴志
事務局　　村上　悠太（☆）

04　有限会社　レイルマンフォトオフィス

〒102-0072　東京都千代田区飯田橋 3-4-3　エレガンス飯田橋 504
Te1　03-5212-2045　　Fax　03-5212-2046

会　長　　山﨑　友也（☆）

05　北陸重機工業株式会社

〒950-0871　新潟県新潟市山木戸 7-3-69
Te1　025-274-3311　　Fax　025-271-4812

取締役会長　　霜鳥　勝徳
営業課長　　岩橋　正人（☆）

06　株式会社 JTB パブリッシング

〒162-8446　東京都新宿区払方町 25-5
Te1　03-6888-7845　　Fax　03-6888-7876

代表取締役社長　　里見　雅行
シニアオフィサー　　河合　桃子（☆）

07　有限会社鉄道フォーラム

〒484-0085　愛知県犬山市西古券 57
Te1　0568-62-9603　　Fax　0568-61-6310

代表取締役　　伊藤　博康（☆）

08　株式会社片上鉄道

〒708-1523　岡山県久米郡美咲町吉ケ原 517
Tel　080-3541-5552　　Fax　082-507-2035

代表取締役　　森岡　直子（☆）

09　株式会社日本旅行

〒105-8606　東京都中央区日本橋 1-19-1　日本橋ダイヤビルディング 12 階
Tel　03-6895-7865

代表取締役社長　　堀坂　明弘
情報システム部　　瀬端　浩之（☆）

10　トレインプラン

〒662-0054　兵庫県西宮市大谷町 3-30

代　表　　太田　裕二（☆）

友の会　会員（五十音順）

赤羽　　誠	阿部　　豊	井門　義博	岩野　弘一	遠藤　哲夫
加藤　圭哉	倉繁　　聡	柴山　純一	清水　　薫	白川　　淳
関田　克孝	橘　　秀幸	田中　光一	田中　浩史	長野　光芳
西尾　恵介	野田　智毅	藤井　　修	水野　彌彦	

以　上

日本鉄道保存協会規約

（名称）

第１条　　この会の名称は、日本鉄道保存協会（以下［協会］という）とする。

（目的）

第２条　　協会は、歴史的鉄道車両、構造物、建物等を保存している団体が集い、相互に情報を交換し、将来にわたる保存・活用を推進することを目的とする。

（会員）

第３条　　協会は、正会員たる加盟団体および賛助会員をもって構成する。

（会議）

第４条

１．協会の会議は、総会および幹事会とする。

２．総会は年１回開催するものとし、必要のつど臨時に開催することができる。

（役員団体）

第５条

１．協会に代表幹事団体１団体、幹事団体２団体、会計監事団体２団体を置く。

２．代表幹事団体、幹事団体、会計監事団体は、加盟団体の互選により選出する。

３．代表幹事団体は、協会を代表し会務を総理する。
幹事団体は、総会その他会務の執行に関する重要事項を協議する。
会計監事団体は、協会の会計を監査する。

４．役員団体の任期は２年とし、重任を妨げない。

（顧問）

第６条　　協会に顧問を置く。顧問は、総会において代表幹事団体が推薦し、任期は２年とし、重任を妨げない。

（友の会）

第６条の２

１．協会に日本鉄道保存協会友の会（以下［友の会］という）を設置し、協会の活動を支持する個人をもってその会員とする。

２．友の会会員は総会に出席することができる。但し議決権を有しない。

（事務局）

第７条　　協会の事務局は、代表幹事団体に置く。

（会費）

第８条

１．協会の経費は、正会員、賛助会員および友の会会員が拠出する会費、並びに寄付金により賄う。

２．年会費の額は、正会員１２，０００円、賛助会員１２，０００円（１口）、友の会会員３，０００円とする。

３．会計年度は、４月１日から翌年３月３１日までとする。

（規約の改正）

第９条　　この規約の改正は、総会の議決によらなければならない。

付則　　この規則は、平成３年４月１日から施行する。

総会の運営方法

原則として加盟団体が輪番制とし、開催に際しては、代表幹事団体および幹事団体ならびに開催場所の団体が協同して行う。

平成　３年　４月　１日施行
平成　６年　８月１０日改正
平成１６年　９月１０日改正
平成２０年１０月　２日改正

団体名	遠　軽　町	〒　099-0203 Tel：0158-47-2213　　Fax：0158-47-2128 URL：http://engaru.jp/ Email：m-sangyou@engaru.jp 担当者：丸瀬布総合支所産業課　係長　上戸　智仁

H26.9.23 撮影
雨宮 21 号・DL 機関車併走同時運行

雨宮21号は森林鉄道用の蒸気機関車として昭和3年から約30年間、木材の運搬や生活物資の運搬のため武利意森林鉄道で活躍した車輌の１台です。
用途廃止後は、町民の保存運動によって唯一本機のみがスクラップ化を免れ、昭和54年には森林公園いこいの森で待望の動態保存が実現しました。

平成 16 年度　北海道遺産に選定（NPO 法人北海道遺産協議会）
平成 20 年度　近代化産業遺産に認定（経済産業省）
平成 24 年度　準鉄道記念物に認定（ＪＲ北海道）

1.運行日　　平成 28 年 4 月 29 日から 10 月 23 日までのＧＷ・夏休み・土・日・祝日
2.運行時間　１０時から１６時３０分（３０分毎）
3.運行区間　森林公園いこいの森　２ｋｍ
4.乗車料金　大人５００円（高校生以上）　小人２５０円（４才以上）

【近況報告】

◆台風による災害

北海道台風上陸(7 号・ 9 号・11 号・10 号)

森林公園いこいの森遊具施設・キャンプ場・軌道半分が武利川の氾濫により使用不可能となった。

9 月 3 日より軌道半分を利用し、雨宮 21 号と
DL 機関車を使いプッシュプル運行を行っています。
※半周を 2 周しています。

この度の災害でフェイスブックページ等に、皆様からのお見舞いのメッセージや復旧に向けての応援メッセージを頂き誠にありがとうございました。
今年度の復旧は難しいと思いますが、早急な復旧に向けて頑張って参りたいと思いますので今後ともどうぞよろしくお願いします。

団体名	ふるさと銀河線 りくべつ鉄道	〒　089-4300 北海道足寄郡陸別町字陸別原野基線６９番地１ Tel：0156-27-2244　　Fax：0156-27-2791 URL　http://rikubetsu-railway.jimdo.com/ Email　ginga@bz01.plala.or.jp

【営業期間】

４月下旬～１０月下旬

【気動車乗車体験】

CR75（銀河鉄道 999 ラッピング列車）を使用し運行しています。

料金：中学生以上 300 円・小学生 200 円・小学生未満無料(構内)、中学生以上 500 円・小学生 300 円・小学生未満無料(構外)

【トロッコ体験】

足こぎ式を利用し 400m の周回コースを１周

料金：中学生以上 300 円・小学生 200 円・小学生未満無料

【気動車運転体験】

CR70・75 型を使用し、運転士指導の下で運転していただくコースです。

（S コース）

女性の方でも簡単に体験できます。

料　　金：2000 円

対 象 者：小学校高学年以上身長 130 ㎝以上

体験運転：約 30 分間（運転・説明）

（銀河コース）

1 週間前完全予約制

※L コース体験者のみ体験可能

予約方法：インターネットまたは電話予約

料　　金：30000 円

体験時間：約 80 分間（運転）

駅構外乗車体験列車「銀河号」第８回鉄道まつり
平成２８年７月２４日（日）

（L コース）

1 週間前完全予約制

予約方法：インターネットまたは電話予約

料　　金：20000 円

体験時間：約 80 分間（講習・出区点検・運転）

（銀河コースパックセット）

1 週間前完全予約制

初心者でも銀河コースを運転できるのでおススメ!!

予約方法：インターネットまたは電話予約

料　　金：50000 円

体験時間：計約 160 分間（講習・出区点検・運転）
L コース 80 分間・銀河コース 80 分間
L コースと銀河コースの体験に、2 食付の宿泊が付き 50000 円。

平成２８年度事業経過

今年度は陸別駅から往復 11.4 ㎞の旧分線駅までの乗車体験列車を３回運行しました。乗車時間も今までの倍近い５０分程度に増え、陸別の大自然の中をゆっくり走る気動車に揺られながら小さな旅を楽しむことができます。

また今年で８回目を迎えたりくべつ鉄道まつりでは花火列車の運行及び車内にてプラネタリウムの上映が行われました。駅構外の乗車体験列車は３両編成で運行され多くのお客様で賑わいました。

昨年冬に完成した作業用ピットでは簡単な修理作業や点検を行ったほか、今後はちほく高原鉄道から譲り受けたジャッキ等を活用し休車となっていた車両も含め順次修理作業に入る予定です。修理作業に先立ち、６月には新潟トランシスより技術スタッフをお招きし、修理箇所の確認などを行いました。

新設された作業ピットとちほく高原鉄道時代のジャッキ

＜平成２８年度イベントスケジュール＞

４月 23 日(土)　平成 28 年度営業開始
★5 月 4 日(水)　GW 特別運行
７月 24 日(日)　第８回りくべつ鉄道まつり
★8 月 11 日(木)～15 日(月)　お盆特別営業
★9 月 11 日(日)　網走本線開通記念イベント
10 月 9 日(日)　鉄道の日記念運行
10 月 30 日(日)　平成 28 年度営業最終日
★陸別～分線間乗車体験列車運行
※８月は１３日のみ構外運行実施

めがね橋だより

平成２８年３月

【 士幌線跡の草刈り 】を実施

７月に士幌線跡・十四の沢から第五音更川橋梁までの約５．８ｋｍの草刈りを行いました。
廃線跡をこれだけ綺麗に保全している路線は少ないと思います。ただ、ヒグマの気配が結構します。

草刈りの作業中

草刈りの作業中

熊の糞

【 第三音更川橋りょう保全および活用事業 】について

平成２１年度から行っています「第三音更川橋りょう補修のための募金」総額は平成２８年４月３０日現在９１４件で４９、８８４、８４２円になっています。（上士幌町で管理しています）皆様のご協力に心から感謝申し上げます。平成２９年度まで募金活動を行います。

北海道遺産

発　行　ＮＰＯ法人ひがし大雪アーチ橋友の会　会長　那須襄太郎
事務局　〒080-1408　河東郡上士幌町上士幌東３線239番地
ＴＥＬ　01564-2-3385　ＦＡＸ　2-3682
Ｅメール　arch@oregano.ocn.ne.jp
ホームページ　http://arch-bridge.sakura.ne.jp

【 旧国鉄士幌線・鉄道遺産フォトコンテスト 】を実施

全国各地から17名61点のご応募がありました。その中から最優秀賞１点、優秀賞３点、入選１２点を選定しました。

応募された作品６１点

最優秀作品

優秀作品

優秀作品

【 観光トロッコ 】を運行

６月から１０月まで全長６６２mの線路を使って観光トロッコを運行しました。
ご乗車のお客様からは自然の中の　トロッコ乗車は気持ち良いとの感想を頂いています。今後、車椅子専用車両を作る予定です。

走行中

秋の第六糠平トンネル

裏面へ

団体名	北海道三笠市	〒068-2192　北海道三笠市幸町 2 番地 三笠市役所商工観光課 Tel：01267-2-3997　　Fax：01267-2-7880 Email：kankou@city.mikasa.hokkaido.jp URL：http://www.city.mikasa.hokkaido.jp/
施設名	三笠鉄道村	〒068-2145　北海道三笠市幌内町 2 丁目 三笠鉄道記念館 Tel：01267-3-1123　　Fax：01267-2-6965 Email：tetsudoumura@s-304.com URL：http//www.s-304.com

三笠鉄道記念館は、北海道鉄道発祥の地として歴史的遺産・文化保存のため、昭和 62 年にオープンしました。館内には、明治時代の貴重な材料や、大正、昭和期に実際に使用された時刻表・制服・ＳＬ部品・信号機をはじめ北海道鉄道開拓時代から旧国鉄時代に活用されていた貴重な鉄道関連品を展示しています。動体保存されている蒸気機関車 S-304 号は、1939 年に日本製鉄輪西製鉄所（後の新日本製鐵室蘭製作所）向けに作られた産業用機関車です。

■ＳＬ運行（乗車１回３００円）
運行日‥‥‥‥４月１６日から
１０月１５日までの土・日・祝日
※７月下旬～８月中旬までの夏休み期間は、
休館日を除き毎日運行。
土曜‥‥‥‥‥１２：００始発～１６：００発最終
日曜・祝日‥‥１０：００始発～１６：００発最終
※３０分毎の発車です。
ただし、１２：３０発の便はありません。

■ＳＬ機関士運転体験
三笠鉄道村では、蒸気機関車 S-304 号の運転体験ができます。村内の幌内鉄道 450m を 1 往復。5 分足らずのわずかな時間ですが、気分はＳＬ機関士そのもの。全国各地からの参加があり、会員数も 600 人を超え、多くの方に楽しんでいただいています。（詳しい体験方法はホームページご参照）

■展示車両（三笠鉄道村幌内ゾーン）
動態展示‥‥S-304（C 形タンク機）、コトラ 149456、コトラ 153095
機関庫内展示‥‥C122（国鉄 C12 形機関車）、59609（国鉄 9600 形機関車）　、ED76505、DD13353
屋外展示‥‥DD51610、オハフ 33451、スハフ 4412、　スユニ 50505、キハ 2252、キハ 2723、キロ 26104、キハ 5616、DD1517、DD141、チキ 6147、ソ 81、スエ 3041、スエ 321、DD1615、キ 274、キ 756、セキ 6657、トラ 72568、ワム 66172、DE101702、排雪モーターカー510、ロータリー排雪車 DL7L、坑外用 8ｔ電気機関車 2 両
食堂車‥‥スハフ 4520、キシ 8031、オハフ 46504

■ イベント開催
毎年のゴールデンウィーク、お盆、秋にイベントを実施。
イベント時には、オリジナルヒーロー「鉄道戦隊ぽっぽレンジャー」が登場します。
今年のゴールデンウィークに行われたイベントでは、「ぽっぽレンジャービンゴ大会」や「どん菓子つめ放題」が行われ、小さなお子様連れのお客様で賑わいました。

団　体　名	三菱大夕張鉄道保存会	連絡先　068-0855 北海道江別市大麻宮町 4-6 三菱大夕張鉄道保存会事務局　011-387-4783

〇三菱大夕張鉄道について

三菱大夕張鉄道は明治 44(1911)年に大夕張炭坑の専用鉄道として清水沢～二股間(後の南大夕張)が開通、その後炭鉱の北部移転に伴い、南大夕張～通洞間(後の大夕張炭山)が延長された。昭和 14(1939)年には地方鉄道に改組され、大夕張炭鉱の他、沿線の中小炭鉱の石炭輸送、森林鉄道で運び出された本材輸送など、沿線の開発に大きな貢献をした。また、道路が未整備であった昭和 30 年代後半までは、地域住民の貴重な足でもあり、昭和 62(1987)年に南大夕張炭鉱の合理化で鉄道が廃止されるまで残された「石炭ストーブ」列車は夕張の冬の風物詩でもあり住民等に親しまれていた。

〇三菱大夕張鉄道保存会の活動

鉄道廃止後、最終日の編成のままの客車・貨車などが南大夕張駅跡に残された。平成 2(1990)年には南大夕張炭鉱が閉山、保存・公園化を前提として車両が夕張市へ譲渡された(実際に正式譲渡されたのは平成 19 年)。公園化が具体化しないまま平成 11(1999)年には客車 1 両が積雪により転覆したが、市民や出身者などで三菱大夕張鉄道保存会が発足、夕張市へ保存を求めると共に修復活動開始し、12 月には夕張市により客車の転覆復旧工事が実施された。

その後当会により補修作業が本格化し、平成 13(2001)年には三菱大夕張鉄道の車両を含む空知管内の炭鉱遺産が「北海道遺産」として認定された。平成 17(2005)年には、夕張市によりシューパロダム周辺整備計画の一環として「南大夕張列車公園」整備計画が発表、住民説明会も実施されたが翌 18(2006)年には財政破綻が表面化。公園計画は事業見直しにより凍結された。平成 19(2007)には旧南大夕張駅と保存車両が経済産業省により、近代化産業遺産として認定された。平成 27(2015)年には三菱鉱業自社発注のナハフ 1 が往年の塗装に復元された。一方、財政破綻により、夕張鉄道や三菱大夕張鉄道のＳＬや関連資料を保存する、石炭の歴史村・ＳＬ館も閉鎖されたままとなっている。旧南大夕張駅については保存車両の補修に加え、補助金等を活用して周辺整備も進めているが、数年後の石勝線支線の廃止も視野に、ＳＬ館も含め石炭と共に歩んだ鉄道の遺産を地域再生に活用出来るよう活動を展開しますので、皆様のご指導・ご支援願います。

主な活動内容

〇保存車両公開　4 月下旬～11 月中旬(月 1 回程度の補修活動)

〇汽車フェスタ　9 月上旬

〇ＳＬ館雪下ろしバスツアー　1 月下旬

〇ＳＬ館公開や廃線跡・産業遺産探訪などを組み合わせたシンポジウム・バスツアーなどの企画、実施

〇ホームページ　http://www.ooyubari-rps.net/

夕張市での連絡先　夕張市清水沢 2 丁目読売新聞夕張中央メディアセンター(高橋勇治)

団体名	一般社団法人 南部縦貫レールバス愛好会	〒　039-2512 青森県上北郡七戸町笊田 54-2 旧七戸駅機関庫内 Tel：080-3201-4158　Fax： URL：www.ogaemon.com/ Email：zwr07104@nifty.ne.jp 担当者：小川

廃線になりました南部縦貫鉄道で使用されていた車輌の保存活動を行っています。今年度は、製造より 60 年を迎えましたキハ１０４号の修繕に注力を注ぎました。長くコンバーターの不調が続いておりましたが、保存協会関係団体様の多大なる協力を賜り、復活致しました。この場をお借りしまして、御礼を申し上げます。

来年度は、鉄道運行休止と、愛好会活動開始 20 周年の節目でございます。今後共ご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

団体名　七百レールファンクラブ

https://www.facebook.com/pages/七百レールファンクラブ/1014675581876815

七百検修庫：〒033-0071
青森県上北郡六戸町大字犬落瀬字権現沢14-66

七百ﾚｰﾙﾌｧﾝｸﾗﾌﾞ会長自宅：〒033-0071
青森県上北郡六戸町大字犬落瀬字権現沢95-2
会長：斎藤正

施設名　七百鉄道記念館

七百鉄道記念館 事務取扱方
住所：〒336-0926
埼玉県さいたま市緑区東浦和7-4-12-103
氏名：野田　悟
連絡先：070-6528-2629（開館時以外は通じません）
メール：shichihyaku@wcn.ne.jp

平成24年3月31日限りで廃線となった十和田観光電鉄株式会社の旧：七百駅構内にて同社の車両の保存活動などを行っている団体です。

平成25年に旧：七百駅周辺の住民が中心となり「七百レールファンクラブ」発足
平成26年に旧：七百検修庫を中心とする土地・建物と車両6両を十和田観光電鉄から会員が購入
平成27年5月31日　「七百鉄道記念館」として第一回　一般公開を実施
平成27年11月8日　第二回　一般公開を実施
平成28年5月29日　第三回　一般公開を実施
平成28年11月6日　第四回　一般公開を実施予定

ED402（左）、ED301（右）

モハ3401（左）、モハ3603（右）

一般公開の様子

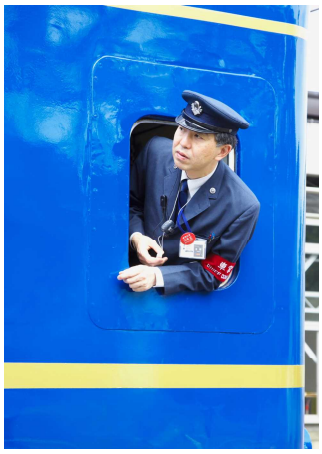
（左：第1回、右：第3回）

※ 個人連絡先（野田）

自宅：048-876-0102
自宅PC：IZD01662@nifty.com
個人携帯：090-2520-2629
個人携帯アドレス：satorunoda@docomo.ne.jp

団体名	小坂鉄道保存会	連絡先（小坂鉄道レールパーク　気付） 〒017-0202 秋田県鹿角郡小坂町小坂鉱山字古川20-9 Tel 0186-25-8890　Fax 0186-29-2002

ブルートレインあけぼの 発車！！



◀〝あけぼの号〟特別運行
現役と見間違えるほど

かつて青森・上野間を走った寝台特急が、小坂鉄道レールパークに導入され、昨年秋、簡易宿泊施設「ブルートレインあけぼの」として〝運行〟開始。今年４月からは、Ａ個室寝台の運用も開始され、人気も上々です。それも、列車ホテルでは全国唯一の動態保存！

小坂鉄道保存会では、不定期とはいえ、車掌として乗務し〝車内放送〟などで活躍しています。「おやすみ放送」、「おはよう放送」が、宿泊客には〝たまらない魅力〟とか。（ときには青函連絡船旅客名簿配布も…）

６月には、アカシアまつりに協賛し、お客様を乗せ往復５㎞を特別運行。会員も駅員・車掌・踏切保安員として全面協力し、往年の寝台特急が復活しました。

小坂鉄道保存会は、これからも〝魅せ鉄〟で頑張ります。もちろん、ディーゼル機関車運転体験も！

春の〝あけぼの回送イベント〟全員集合▶

団体名

くりはら田園鉄道

昭和の情緒と豊かな田園風景を楽しめる、乗車会を開催

宮城県の北部に位置する栗原市で大正時代から運行していたのが「くりはら田園鉄道」です。旅客・貨物輸送を行った単線ローカル線で、「くりでん」の愛称で親しまれていましたが、2007年に惜しまれながら廃線となりました。
現在は、その歴史を後世に伝えていこうという趣旨から、2010年から「くりでん（KD95）乗車会」を、2014年4月からは、レール上を自転車感覚で走行できる「レールバイク乗車会」を開催しています。

1 くりでん(KD95)乗車会

2016年来場者数実績（9月末日現在）
約1,400人

運行当時の車輌そのままに。くりでんの記憶が蘇る乗車会。

現在、会場の旧若柳駅舎は、くりでんの歴史の伝承と発信の拠点として、開業当時の姿（大正期）の姿に復元されています。昭和を感じる佇まいの駅舎内で当時の硬券切符を購入し、改札を抜け、片道約900メートルの距離をKD95（ディーゼル気動車）で、当時の雰囲気さながらに往復運行します。

- イベント期間：6月～11月の第2日曜日
- 運行区間：片道900m
- 乗車料金：小学生以上1人200円（※運行協力金）

KD95

2 レールバイク乗車会

2016年来場者数実績（9月末日現在）
約4,000人

レール上を直接走る感覚が新鮮！気動車とはひと味違った体験が可能。

レールバイクは、通常の自転車と同様にペダルを漕いで、レールの上を走行することができる乗り物です。レールの継ぎ目の「ガタンゴトン」という音を直に体感することができます。そのためお客様から「レールの上を自転車感覚で走れる新鮮な体験！」、「子どもたちが電車になった気分でとても喜んでいた！」と好評いただいているイベントです。

- イベント期間：4月～10月の毎週日曜日（※不定休あり）
- 運行区間：片道300m、900mの2種類（※日によって変動）
- 乗車料金：無料

レールバイク

◆―― 特別企画開催 ――◆

- **ねじりほんにょと記念撮影**
  栗原市マスコットキャラクター「ねじりほんにょ」との記念撮影。
- **くりでん帽子・ジャケット記念撮影**
  当時使用された帽子とジャケットを身にまとい、ＫＤ９５をバックに記念撮影。これで気分は運転手。
- **ワフ７型内部公開**
  貨物営業で使用されていた貴重な貨車の内部を特別に一般公開。
- **キーワードを探せ**
  走行区間内にある文字を集めて栗原にまつわるキーワードが完成。正解者には記念品をプレゼント。
- **くりでんオリジナル缶バッチ作成体験**
  くりでんロゴマークのスタンプなどを使って、缶バッチを作製。
- **光源クリハライザーショー**
  栗原市のご当地ヒーロー「光源クリハライザー」のショーを開催。
- **DB10（ディーゼル気動車）特別運行**
  通常、構内展示のみのDB10（ディーゼル機関車）を特別運行。
- **プラレールコーナー**
  駅車内にプラレールを使って自由に遊べるコーナーを設置。　　など

DB10(ディーゼル気動車)特別運行

光源クリハライザーショー

旧若柳駅舎に隣接する芝生広場

ねじりほんにょと記念撮影

お問い合せ先
栗原市企画部企画課
TEL：0228-22-1125　E-mail：kikaku@kuriharacity.jp
HP：http://www.kuriharacity.jp/

イベント会場
くりはら田園鉄道 旧若柳駅
住所：宮城県栗原市若柳字川北塚ノ根17-24

団体名	真岡線ＳＬ運行協議会	〒３２１－４４１５ 栃木県真岡市下籠谷４４１２番地 TEL 0285(82)9151　FAX 0285(82)9152

▲ＳＬもおか「Ｃ１２６６」

「ＳＬもおか」２０１６冬・運行日程

【運行日】　１１月　３日・５日・６日・１２日・１３日・１９日・２０日
２３日・２６日・２７日
１２月　３日・４日・１０日・１１日・１７日・１８日・２３日
２４日・２５日
１月　７日・８日・９日・１４日・１５日・２１日・２２日
２８日・２９日

【運行区間】　真岡鐵道　下館駅～茂木駅（４１.９キロ）

【運行時間】　下り　下館駅１０：３５発～茂木駅１２：０６着
上り　茂木駅１４：２６発～下館駅１５：５６着

【運行車両】　ＳＬ　Ｃ１２形６６号、Ｃ１１形３２５号
ＰＣ　オハ２両、オハフ１両
ＤＬ　ＤＥ１０　１５３５　１両

〔近況報告〕

◆平成２８年１１月２７日（日）、第７回真岡鐵道ＳＬフェスタ開催！

・今年で7回目となる「真岡鐵道ＳＬフェスタ」を開催いたします！昨年度、静岡県から「Ｄ５１　１４６号機」が移設され、さらに盛り上がりを見せるＳＬフェスタです。楽しいイベント盛りだくさんで、沿線の方や真岡鐵道ファンの皆様、そしてＳＬファンの方のお越しをお待ちしております。

▲Ｄ５１お披露目

▲昨年度の様子

▲Ｄ５１でのＳＬ教室

◆７月、８月にて夏休みＳＬイベントを実施

・今年も子どもたちの夏休み期間にあわせて、夏休みＳＬイベント「ＳＬ教室」・「ＳＬガイド体験」等を開催しました。大変暑い中、多くの参加者にお申し込み頂き、ＳＬもおかの旅を楽しんで頂きました。

▲体験参加者の記念撮影
（ＳＬガイド体験）

▲運転室にてＳＬの仕組みを学ぶ参加者（ＳＬ教室）

▲ボランティアスタッフから説明を受ける参加者（ＳＬ教室）

団体名	NPO 法人 **足尾歴史館・トロッコ部** (旧　けいてつ協会)	〒321-1523 Tel：0288-93-0189　　Fax：0288-93-0189 URL：http://ashiorekishikan.com Email：なし 担当者：

▲新しくナローゲージの保存車に加わった立山砂防工事専用軌道の機関車 2 台(左)と、足尾ガソリン軌道歴史館線の主役であるガソリンカー(右)

▲立山からの機関車入線を記念して、館内に設置された立山砂防工事専用軌道のパネルと、建設省(現在は国土交通省)特製のスイッチバックジオラマ

▲毎年、3 回ほど開催されています、わたらせ渓谷鐵道足尾駅構内で保存されている鉄道車両の一般公開。一部は動態保存として展示走行します。

長年、鉄道保存ボランティア団体として活動してきました「けいてつ協会」は、ホームグラウンドを栃木県日光市にありますNPO 法人足尾歴史館に移してから８年たちました。

おもな活動内容は、館内にあります「足尾ガソリン軌道・歴史館線」のお手伝いと、全国各地から集められたナローゲージの保存車両の管理に、わたらせ渓谷鐵道の足尾駅構内にありますキハ 30 他の鉄道車両たちの保存活動という足尾歴史館を中心とした活動内容となっております。そこで、従来の「けいてつ協会」は、今年度から発展的解消として NPO 法人足尾歴史館の新たな部会「トロッコ部」に合併となりました。

今まで以上に鉄道関係の保存活動を栃木県の“足尾”から発信していきたいと思いますので、どうかNPO 法人足尾歴史館・トロッコ部をよろしくお願い申し上げます。

【足尾ガソリン軌道歴史館線＆野外展示場】の近況

昨年の 12 月、富山県の国土交通省：立山砂防工事専用軌道から、日光市の協力を得まして、２台の北陸重機工業製造の５トンディーゼル機関車が NPO 法人足尾歴史館・足尾ガソリン軌道歴史館線へと動態保存のため入線いたしました。

また、とある鉄道会社から寄贈頂きました腕木式信号機(ダブル)を徹底的に動くよう整備し足尾歴史館野外展示場に設置しました。おそらく国内では動態保存となっている腕木式信号機(ダブル)は唯一と思われます。

【足尾駅での保存車両の公開】

わたらせ渓谷鐵道の足尾駅構内には、地元に縁のある気動車(キハ 30 など)や貨車(タンク車ほか)に入換用の機関車など多数保存されています。敷地の所有者であります わたらせ渓谷鐵道株式会社と 古河機械金属株式会社のご理解と協力により、保存車両をNPO 法人足尾歴史館・トロッコ部が所有・管理しております。この車両たちの公開を年３回おこなっております。今年も４・８・10 月内に各 1 日で合計 3 回おこないました。来年も公開を予定しております。なお、一部の貨車や入換用機関車は“動態保存”として、公開時に展示走行となっています。

団体名	鹿島鉄道保存会 ＜鹿島鉄道記念館＞	〒113-0033 東京都文京区本郷 5-25-16 石川ビル 11 階 ㈱バレア内 TEL 03-5802-2755　FAX 03-3818-2700 E-mail info@kashitetsu.com URL https://www.facebook.com/kashitetsu 代表者：加藤

鹿島鉄道保存会は、平成19年3月末をもって営業廃止した鹿島鉄道線（石岡～鉾田間27．2km）の物品・資料の収集や茨城県小美玉市にある私設・鹿島鉄道記念館（普段は非公開）の保存展示など運営サポートを行っている任意団体です。旧かしてつ応援団をはじめとする存続運動関係者や鹿島鉄道応援ホームページメンバーなどの有志約20名で構成され、年齢や職業も多岐に渡り「鹿島鉄道が心の底から好きだった」という共通認識でつながっています。

キハ 714　湘南窓で最も人気のあった車両

KR-501　かしてつ応援団のラッピング車両

【保存車両】
キハ７１４（昭和２８年新潟鉄工所　元夕張鉄道キハ２５１）
ＫＲ-５０１（平成元年新潟鉄工所　鹿島鉄道自社発注車）
キハ４３１（昭和３２年東急車輌　元加越能鉄道キハ１２５）
【保存建物】
玉里駅上りホーム待合室
ヘッドマーク、駅名板、信号機その他多くの鹿島鉄道関連グッズ、存続運動資料等を収蔵
【一般公開】
平成２１年３月の記念館完成後、鉄道ファン向けの一般公開（事前予約制）、見学団体受け入れや自治体とのイベント共催による特別公開を数回実施していますが、平成２３年１１月以降はスタッフ多忙などの理由で長らく一般公開を見送っておりました。本年７月３１日、約５年振りに一般公開（先着制）を実施、約 60 名の来館者をご案内しました。また、小川南病院・鉾田駅保存会のご協力により、キハ４３２（はるるの郷）、キハ６０１・ＫＲ-５０５（ほっとパーク鉾田）も同時公開されました。
【今後の活動】
現在未定ですが、来春で鹿島鉄道廃線から１０年を迎えることから、何らかのメモリアルイベントを開催したいと考えています。開催が決定した場合は、当会 Facebook ページでご案内する予定です。

団体名　**鉾田駅保存会**

〒311－1528
茨城県鉾田市当間220ほっとパーク鉾田
TEL029－239－6735
e-mail：hokota-station@rail.nifty.com
URL：http://hokotaeki.jp　http://鉾田駅保存会.jp

2007年3月31日に廃止になった鹿島鉄道の2両の気動車、キハ601とKR－505の保存活動を、2両が保存されている、茨城県鉾田市の市営温泉施設『ほっとパーク鉾田』で行っています。
2012～16年度は、車両の補修・塗装作業と、毎月第4日曜日の定期車内公開を実施しました。
2016年度も，車両の補修・塗装作業と、毎月第4日曜日の定期車内公開を実施しています。
2016年度は、鹿島鉄道廃止10周年の節目の年として、行事の開催を予定しています。
当会が保存活動を行っている、鹿島鉄道の気動車、キハ601とKR－505は2008年1月に当会が鹿島鉄道殿から購入したものでした。
鉾田駅保存会は、賃借した鉾田駅跡地において2両の気動車の保存活動を実施していました。
その後紆余曲折があり、鉾田市議会の議決により市の温泉施設『ほっとパーク鉾田』において2両のを保存することになり、当会は気動車2両を鉾田市に寄付し、鉾田駅の保存車両は2009年12月24日に『ほっとパーク鉾田』に移送されました。その後当会は引き続き2両の気動車の保存活動をしています。

東日本大震災被害の復旧作業

展示状態

月例の定期公開では、保存活動の周知と、鹿島鉄道を知らない年少世代への記憶の継承を目的に、下記の様な企画を行っています。
（1） KR－505車内でのプラレール遊び
（2） キハ601車内での鉄道模型展示・運転（N・HOゲージ・鉾田駅・常陸小川駅のジオラマ等）
（3） 5インチ乗用鉄道の体験乗車（16m×10mオーバル）
（4） 鉾田駅保存会製作のグッズの販売
（5） 鹿島鉄道関連書籍の展示
（6） 保存活動内容の展示
東日本大震災では展示線路盤の液状化等により床下機器にも被害が及び、修復に取り組んでいます。

対外活動として、鉾田市主催の『鉾田うまかっぺフェスタ』や、『ほこたマラソン』『鉾田花火大会』『石岡市商工祭』『いしおか七夕まつり』などの地域行事に参加　・協力し、広報活動を行っています。
昨年度末は、キハ601及びKR-505の全塗装を行いました。
今年度は、4月中旬に小美玉市の『そらのえきそ・ら・ら』に出展し、活動内容の広報などを行いました。
また、7／31(日)には、鹿島鉄道記念館殿の公開に合わせて臨時公開日を設定させていただき、沿線の保存車を一度に訪問できる機会として、鉾田へも多数の方においでいただきました。
現在、KR-505の劣化したカーテンの取替えに着手しています。10月中旬の完了を予定しています。
本年度末は鹿島鉄道の廃止から10周年にあたる節目の年であるため、年度末に廃線10周年行事の実施を予定しています、また、12月末より来年3月に、定例の補修を計画しています。
今年度の定期公開予定日は、10／23（日）・11／27（日）・12／24（土）の予定です。
イベント参加予定は、鉾田うまかっぺフェスタ：10／9(日)・10(月)、ほこたマラソン12／18(日)他です。
臨時公開予定日は、廃線10周年公開：3／31（木）　です。

団体名	一般財団法人　碓氷峠交流記念財団 碓氷峠鉄道文化むら	〒　379-0301 Tel：027-380-4163　FAX：027-380-4111 URL：http://www.usuitouge.com/bunkamura/ Email：bunkamura@usuitouge.com 担当者：飯沼　勲

碓氷峠鉄道文化むらは群馬県の南西部に位置し、碓氷峠をはさんで長野県の軽井沢町と接しています。峠のシェルパＥＦ６３形機関車の基地であった旧横川機関区の跡地で、東京ドーム３．５個分のスペースがあります。

峠の鉄道の歴史は古く、明治の初めに東京～京都間を信越本線経由で結ぶと決定されましたが、明治１９年にこの峠が難関のため東海道本線経由に変更された経緯のある所です。しかし、明治２６年には日本で初のアプト式鉄道の採用で開通しましたが、１１．２ｋｍで標高差５５３ｍもあり、トンネル区間が多いため当時蒸気機関車の煙害防止のため、明治４５年にこれまた日本初の電化区間となりました。日本の鉄道技術の発展はこの峠から生まれたと言っても過言ではない線区でした。

時移り平成９年、長野オリンピックの開催を控えて、同年１０月１日の長野新幹線の開業と同時に併行在来線として１０４年の歴史にピリオドを打ちました。旧機関区周辺は鉄道の街として発展してきましたが、廃止に伴う過疎化防止と地域経済の核として、群馬県・旧松井田町・ＪＲ東日本の協力により平成１１年４月にオープンしました。

信越本線横川～軽井沢間（通称、碓氷線）は廃線後早１９年が経とうとしており、廃線間際の熱気も潮が引くように静かになってしまいましたが、この廃線敷を使い近代化遺産第１号に指定されている、丸山変電所跡を通り峠の湯までの２．６ｋｍを３月～１１月の間の土日祝日と８月の毎日、トロッコ列車が運行しています。

また日本で唯一のＥＦ６３形電気機関車の体験運転も２，５９２人が受講されています。平成２７年度は３９名の受講者（男性３８名・女性１名）があり、のべ１，６０９回の体験を楽しまれました（平成２７年９月～平成２８年３月まで線路工事のため、講習・運転が中止になったため、人数が少なくなりました)。また、通算５００回以上運転された方が４名おります。２８年度も引き続き多くのお客様が受講され、運転体験を楽しまれています。

今後は屋外に展示されている車両や動態保存しているＥＦ６３形電気機関車の保存方法や修繕方法など、貴重な車両をどのように後世に残していくかが課題となっています。

運転体験で使用している EF63 形電気機関車

トロッコ列車シェルパくん

屋外に展示されている車両

鉄道展示館と１８９系あさま号

団体名	デハ3499号車保存会 http://www.mc-tc.net/3499/	■事務局 331-0802 埼玉県さいたま市北区本郷町313 C-3 ■車輌設置場所 371-0102 群馬県前橋市富士見町皆沢315-16 ■メールアドレス moha565_deha3499@mc-tc.net

■デハ3499について
デハ3499は、東京急行電鉄(東急)の前身目黒蒲田電鉄・東京横浜電鉄が共同発注したモハ510形50両の最終番号モハ565として、1936年(昭和11年)に神戸の川崎車両製造で製造され、本年で満80歳を迎えました。
(右の写真は本年3月、80周年記念として普段取外保管している実物の前照灯・尾灯を装備・点灯したものです。)
大東急併合に伴い、東京急行電鉄デハ3450形3499となり、両運転台の特徴を活かし旅客営業用から荷物電車や機関車代用など幅広く使用されました。
モハ510→デハ3450形は、戦前・戦後の東京郊外電車発展期における代表的な存在として知られ、時に名車ともいわれております。
1989年の3000系列営業運転引退後、デハ3499は架線検測車デヤ3001と共に牽引・入換用等の事業用に専念しますが、田園都市線ATC化に伴い、1992年の「東急70周年記念電車」での(旧)目蒲線におけるイベント運行を事実上のさよなら運転として、翌93年除籍、東急車輌製造に譲渡され、金沢八景-京急神武寺間における新車搬出等の牽引車として活躍しました。
2002年に同じく東急から7000系譲渡に伴い引退、その後は工場敷地の一角に保管されていたものを、縁あって2010年譲り受け、赤城山麓に設置、修復活動を行っています。

■本年度の活動について
引き取った時点で海岸近い場所に保管されていたことから塩害による著しい外板等腐食があり、修理に大変長い時間を要しましたが、外板修理未了箇所は本年10月現在2位側前面(パンタグラフ側)及び隣接する側面乗務員扉下部付近を残すのみとなっています。2位側前面には柱の損傷箇所がありましたが、修理を行っています。(下写真参照)
一方、屋根に看過できない状態の腐食穴が発見され、対策の検討を行っています。いずれにしても、溶接修理完了後はパテ付け修整→塗装へとステップアップが期待できます。来年には全塗装に掛かりたいと念じております。

■対外的活動及び今後について
お越しいただいた方には積極的に車内などをお見せし、専門性などについて来場者に応じた解説を心がけています。
時間と手間暇かけて修復を図ってまいりましたが、そろそろ修復した車輌をどう活用するか、について考える時期にきていると思います。電車は誰の財産的所有であれ公共財であり、みんなのもの、という視座、そして1両の電車から考えうる社会的、技術史的意味合いなどを探り考えるというミュージアム的側面、これらを大切にしつつ、一方で今後も永続的に発生する維持管理費用の捻出、未来永劫赤城山のこの場所でいいのか、という現実的問題。これらを踏まえて、諸事取り組んでまいりたいと思います。

■活動日とアクセス
原則第三土曜日を公開活動日とし、その他随時実施しています。
前橋駅前6番バス乗り場より
赤城山ビジターセンター行　龍の口下車徒歩10分
赤城青少年交流の家行(夏季のみ)　総合グランド下車すぐ

■Facebookグループ
https://www.facebook.com/groups/220335524843931/

団体名	日本工業大学 工業技術博物館	345-8501 埼玉県 南埼玉郡 宮代町 学園台 ４－１ Tel. 0480-34-4111(大学代表) Fax. 0480-33-7570(博物館直通)

製造されて119年、疾走する2109号蒸気機関車の勇姿

2016(平成28)年度の運転について

1993年９月に大井川鉄道より本学に寄贈され、年に２度の洗缶作業を行い、2007年度にボイラー煙管172本とステー管16本を交換して、動態保存を実施している。2012年度の右側シリンダーの補修作業後の有火運転も無事に再開している。
2109号蒸気機関車を、原則として８月と12月を除く毎月第３土曜日に定期有火運転し、一般に公開している。上記の写真にキャンパス内で運転中の様子を示す。
このほかにも学園祭等のイベント時にも有火運転を行っており、運転予定日時等の詳細は、当博物館事務室に問い合わせ下さい。
また、急な都合により運転内容・日時を変更させて頂く場合もあるので、ご容赦願います。

平成28年度の有火運転実績

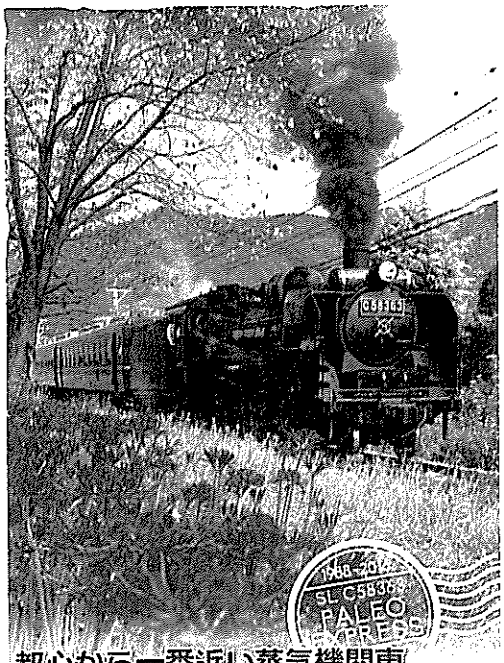
運転日	運転時刻	備 考
5月21日(土)	13:00～15:00	定期運転
6月18日(土)	13:00～15:00	定期運転
7月16日(土)	13:00～15:00	オープンキャンパス
9月17日(土)	13:00～15:00	定期運転

平成28年度の今後の有火運転予定

運転日	運転時刻	備 考
10月22日(土)	13::00～15:00	塑性加工連合講演会
11月 5日(土)	12::00～15:00	大学祭・ホームカミングデー
2月25日(土)	13::00～15:00	定期運転

(平成28年 9月30日現在)

団体名	秩父鉄道株式会社	〒 360-0033 Tel：048-523-3337　Fax：048-526-0551 URL：http://chichibu-railway.co.jp Email：syaryo@chichibu-railway.co.jp 担当者：根津　泰生



都心から一番近い蒸気機関車
SLパレオエクスプレス

SLパレオエクスプレスは、3月下旬から年末の12月初めにかけて、土日・祝祭日を中心に運行しております。

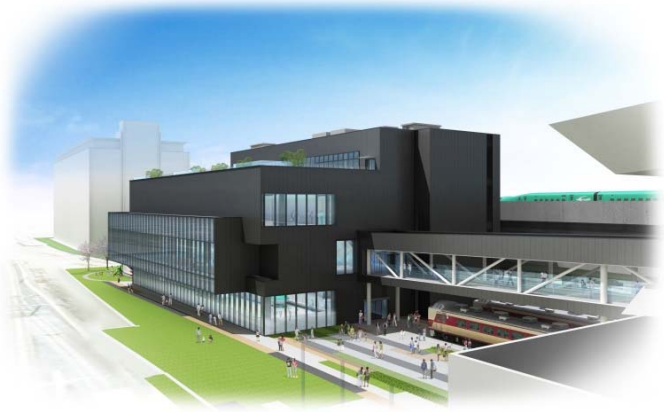
秩父地方の大自然の中を四季折々の景色と共に多くのお客様にSLの醍醐味を楽しんで頂いております。

秩父へお越しの際は、是非一度SLパレオエクスプレスにご乗車お待ちしております。

団体名	東日本旅客鉄道株式会社 公益財団法人東日本鉄道文化財団	〒330-0852 埼玉県さいたま市大宮区大成町 3 丁目 47 番 Tel：048-651-0088　Fax：048-651-0570 URL：http://www.railway-museum.jp/

鉄道博物館本館リニューアル及び新館建設計画について

鉄道博物館では、2018 年夏頃の完成を目指し、本館の全面リニューアルと新館の建設を進めております。新しい博物館では、展示ゾーンを“ステーション”と位置づけ、5 つのステーションを鉄道の世界を旅するように巡っていただきます。



新館（イメージ）

	新館	（参考）本館
延床面積	約 6,000 ㎡	約 28,300 ㎡
展示面積	約 3,500 ㎡	約 10,000 ㎡
階　　数	地上 4 階	地上 4 階
開業時期	2018 年夏（予定）	2007 年秋

1.新館の概要

・本館の南側に、地上 4 階建ての新館を建設します。

	名　称	内　　容
4 階	レストラン	新幹線の走行する姿や、富士山を望むことができるレストランを新設
3 階	歴史ステーション	日本の鉄道史を 6 つの時代に区分し、鉄道技術がいかに進化し社会が豊かになってきたかを豊富な実物資料や記録映像などにより紹介
2 階	未来ステーション	未来の鉄道の姿を考える展示ゾーン
1 階	仕事ステーション	運転士や車掌、指令員、メンテナンスなど鉄道を支える仕事を体験

2.本館の概要

・現在の「ヒストリーゾーン」、を「車両ステーション」にリニューアルします。また、現在の「ラーニングゾーン」2・3 階を「科学ステーション」に、1 階を「キッズカフェ」にリニューアルします。

名　称	内　　容
車両ステーション	車両の躍動感や迫力を、大型映像・音・照明などによる演出で再現
科学ステーション	身近な科学技術の集合体である鉄道を科学の目線から探究
キッズカフェ	鉄道をモチーフにした遊びを展開するキッズ&カフェテリアスペース

・模型鉄道ジオラマ･･･開館以来初となる、全面リニューアルを行います。観客席との間のガラスの仕切りを撤去して臨場感を高めるなど､全面的に作り直します(2017 年 7 月中旬頃リニューアルオープン)。

3.その他

・新館・本館の各所で「旅」をテーマとした展示を実施いたします。

・インフォメーションや案内サインを一新するとともに、多言語対応を充実させます。

※リニューアル工事中も当館は休みなく営業を続けてまいります（但し休館日を除く）。
詳細につきましては順次当館ホームページにてお知らせいたします。

団体名	一般財団法人　東武博物館	〒131-0032　東京都墨田区東向島4-28-16 ☎03-3614-8811　/　Fax03-3614-8814 http://www.tobu.co.jp/museum

◆概要

東武鉄道の創立90周年を記念して、1989(平成元)年5月20日にオープンしました。
身近な交通機関である鉄道やバスに親しみ、理解していただけるよう、館内を8つのコーナーに分けて構成し、東武鉄道の歴史や文化・役割を紹介しています。
郷愁を誘うダイナミックな蒸気機関車をはじめ、実物車両や記念物などの貴重な資料を展示している一方で、交通のしくみを実際に見て、触れて、体感できるようシミュレータや実物機器を設置しています。
また、博物館の真上を走行する車両を至近距離から観察できる、立地を活かしたコーナーも設けたリアルタイム感覚で楽しめる体験型のミュージアムです。

◆保存車両

【静態保存】
明治31年英国ベヤーピーコック社製蒸気機関車2両・大正13年日本車輌製2軸木造電動客車・昭和3年英国イングリッシュ・エレクトリック社製ED101形101号・昭和26年汽車会社製5700形5701号他さまざまなジャンルの車両12両
【動態保存】
・昭和38年製8000系8111編成(6両)・C11 207号蒸気機関車・14系客車4両・12系客車・ヨ8000形車掌車2両

・8000系8111編成を動態保存し、団体専用車としてご利用いただいています。
・2017(平成29)年8月には、鬼怒川線でC11 207号と14系客車を組成した蒸機列車を運転します。

8000系8111編成

C11 207号蒸気機関車

団体名	公益財団法人 日本ナショナルトラスト	〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-5 海事センタービル ℡ 03-6380-8511　FAX 03-3237-1190

トラストトレインは、日本で最初に市民の募金により取得し、保存・活用している歴史的車両です。1987 年 7 月 25 日から大井川鐵道株式会社の協力を得て運転を開始し、多くの方々からの寄付金やボランティア活動に支えられ 20 年以上走り続けてきました。(公財)日本ナショナルトラストでは、今後もこれらの鉄道にかかわる文化遺産を末永く後世へ継承していくため、活動を続けてまいります。

○2016 年「トラストトレイン」運転日

【運転日】4/16、6/11、7/2、8/20、10/1 の計 5 回　　※8/20 は「親子ボランティア」

【区　間】大井川鐵道　新金谷 ― 千頭間（37.2km）

【保有車両の編成】

スハフ 43 形 2・3 号客車、オハニ 36 形 7 号荷物合造客車、C12 形タンク式蒸気機関車

※C12 は現在休車中

【近況報告】

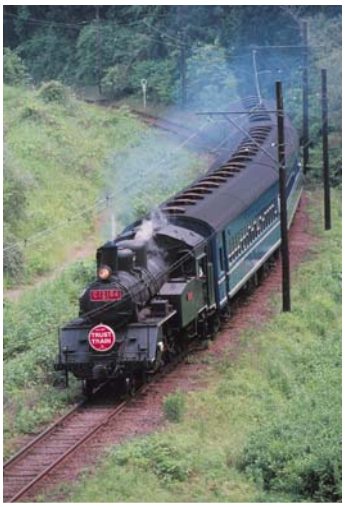
・「親子ボランティア」の開催

毎年恒例のトラストトレイン親子ボランティアを、8 月 20 日(土)に実施しました。ボランティアの協力により、ＳＬ磨き体験、ＳＬ乗車、クイズ、車内アナウンス体験、客車の清掃、汽笛鳴らし体験等を行い、好評を博しました。

一所懸命に SL を磨く子供たち

・トラストトレイン完全復活に向けて

ATS の設置義務付け、ボイラーの不具合により 2005 年以降休車となっていました C12 を含むトラストトレイン（4 車両）を包括的に大井川鐵道(株)に寄託することにより、動態復元に向けて調整を開始することとなりました。まずは車両状況の調査に着手し、今後の具体的な計画を検討していく予定です。これまで通り、国民的財産としてトラストトレインの所有権は（公財）日本ナショナルトラストに帰属しますが、復活工事やその後の車両の運行・管理などは大井川鐵道(株)が主体となって取り組むことになります。両者が協働し、念願であった全車両連結の形でのトラストトレイン完全復活を目指していきますので、引き続き温かいご支援をお願いいたします。



トラストトレインのかつての雄姿
（撮影：酒井　誠）

◆ボランティア募集◆

トラストトレインンでは、8 月の親子ボランティアも含め、年に 5 回ボランティアによる運行を行っています。運行日にはパンフレット配りや客車内の清掃にご協力いただきます。ご興味がありましたら、（公財）日本ナショナルトラストまでお問い合わせください。

※来年の運行日は決まり次第、HP 等でお知らせいたします。

団体名　**公益財団法人 交通協力会**

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 3-4-1 新国際ビル 903 号
電話 03-6269-9808　　FAX 03-6269-9809
会長　菅　達彦　／　理事長　上野　文雄

沿　革

当会の源流は、大戦中の 1943（昭和 18）年に鉄道省が設立した財団法人陸運協力会に遡ります。それまで民間企業に依存していた鉄道関係の新聞・雑誌・書籍の刊行が紙の統制のため困難となったという事情が背景にありました。同年 4 月、日刊紙『陸輸新報』の刊行が始まり、各種の雑誌も戦時下の困難を乗り越えて発刊しました。

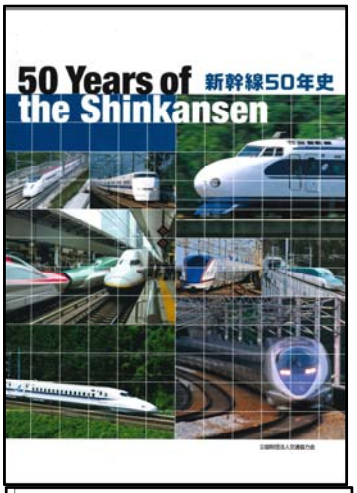
戦後は名称を財団法人交通協力会と改め、『陸輸新報』も『交通新聞』と改称し、『交通年鑑』と『交通技術』誌を発刊、1949（昭和 24)年の公共企業体日本国有鉄道の発足とともに『国有鉄道』・『国鉄線』の両誌を発刊しました。これらの雑誌はいずれも国鉄の機関誌として、1987 年の国鉄改革まで継続発行されました。この間、鉄道創業 80 周年記念事業として国鉄が編纂した『鉄道辞典』や、100 周年記念に国鉄が編纂した『日本国有鉄道百年史』も、同会が刊行しました。

1987（昭和 62）年の国鉄改革にあたり、新聞・雑誌の刊行や書籍出版事業は新たに発足した株式会社交通新聞社に引き継ぎ、当会は交通図書賞の選定表彰など、非営利の公益事業に専念することとなり、2011（平成 23）年には公益財団法人交通協力会として新たな出発をしました。

電子図書館「戦中戦後の交通と国有鉄道」

交通関係の年次刊行物や、旧国鉄の機関誌類を電子復刻し、電子図書館に収蔵しています。既に『交通年鑑』・『日本国有鉄道監査報告書』・『国有鉄道』・『国鉄線』・『交通技術』・『鉄道辞典』を全冊収蔵し、今後『日本国有鉄道百年史』などを収蔵する予定です。

当会ホームページ http://transport.or.jp の電子図書館にアクセスし、ID・パスワードを入手すると、無料で閲覧することができます。



『鉄道 150 年史（仮称）』編纂の準備事業

わが国の鉄道は 2022 年 10 月に創業 150 年を迎えます。

『日本鉄道史』、『日本国有鉄道百年史』に続く正史編纂の好機ですが、現在は鉄道省も日本国有鉄道も存在しないので、編纂の主体や、旧国鉄時代の資料発掘など、困難な課題もあります。

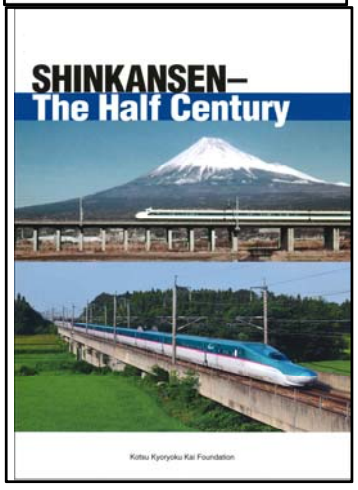
当会は 2012 年に鉄道史資料調査センターを設置し、存在する資料の所在確認と目録作成、個人所蔵資料の保存、旧国鉄幹部等のオーラル・ヒストリーなどの調査・研究活動を積み重ねてきました。2015 年 11 月から、当会が事務局となって、国交省、鉄道・運輸機構、旧国鉄承継法人、民鉄協会などが参加する「鉄道史に関する懇話会」を発足させ、民営・公営鉄道を含む鉄道 150 年の総合史編纂を目指して、議論を重ねています。

『新幹線 50 年史』『SHINKANSEN—The Half Century』の刊行

2014 年に東海道新幹線開業 50 年を迎えたことを記念して、昨 2015 年 3 月『新幹線 50 年史』を刊行しました。国土交通省・JR 各社・日本交通協会・日本鉄道技術協会などの全面協力を得て、各組織の現役の専門家のほか、新幹線に詳しい旧国鉄 OB が執筆し、東海道・山陽・東北・九州などの各新幹線、近く開業予定の北海道新幹線についての記述を網羅しています。

また、『50 年史』の英語要約版である『SHINKANSEN—The Half Century』も昨年 7 月に刊行し、多くの読者よりご好評をいただいております。

車両や輸送の話題だけでなく、安全対策、災害対策、騒音振動の防止、軌道・架線・車両の保守なども取り上げ、豊富な写真・図表を掲載している新幹線史の決定版です。日本語版が 9000 円、英語版が 5000 円（税込）です。お買い求めの上、ご愛用いただければ幸いです。



団体名	神奈川新聞社 「横浜市電 1156 号保存会 （神奈川新聞社）」	〒231-8445 横浜市中区太田町 2-23 神奈川新聞社文化部・齊藤大起（さいとう・ひろき） 携帯電話：090（9015）3707 メール：hi-saito@kanagawa-shimbun.jp 神奈川新聞ウェブサイト「カナロコ」→「CULTURE」→「鉄道」

【団体の趣旨】

横浜市港南・磯子区の久良岐（くらき）公園に展示されている「横浜市電 1156 号」を、修復・維持するとともに、2012 年 4 月から一般公開イベントを開催しています。1156 号は横浜市電 1150 号型の最後の現存車であり、1972 年に全廃された横浜市電の保存車両の中でも、貴重な存在です。「街に市電が走っていたころ」を伝える貴重な遺産と位置づけ、横浜市や地元企業、市民の皆さんと協力しながら、後世に伝えるべく活動しています。

【保存の経緯】

2010 年末、神奈川新聞の記者が 1156 号の「解体」の知らせを聞き、横浜市に修復を申し出たことがきっかけです。その後、同公園近くの塗装業「サカクラ」が地域貢献の一環でボランティアによる修復作業に協力してくれることになり、2011 年 11 月、1156 号の所有者である横浜市環境創造局、株式会社サカクラ、神奈川新聞社の 3 者が、市電保存に関する「覚書」を締結。神奈川新聞社は、紙面を通じた広報や、修復に際しての時代考証、資料・部品の調達などを担当し、サカクラは、板金やガラス加工、電気などの業者とともに大規模な工事を担当しました。修復は 2012 年 1 月から 4 月にかけて実施し、内外の修復と再塗装に加え、ヘッドライトや室内灯の点灯も可能となりました。また 2014 年 2 月には横浜市が展示場の大改修を実施し、架線や電停標識を設置。道路から発掘されたレールを埋め込み、市電線路の“延伸”も実現しました。

【現在の活動】

1 カ月に 1 回程度、車内公開イベントを開催しています。並行して清掃と修繕も行います。また、かつて市電に勤めていた方々への聞き取りや、神奈川新聞社などが所蔵する現役時代の市電の写真の保存活用も進めています。

【横浜市電とは】

1904（明治 37）年に開業した路面電車。最盛期には総延長 51.79 キロの路線を運行、年間 1 億 2 千万人を輸送したが、道路渋滞や国鉄根岸線の開業などの影響で、1966（昭和 41）年から順次廃止され、1972（昭和 47）年 3 月 31 日に全廃。現存車両は、横浜市磯子区の「市電保存館」の 7 両のほか、横浜市内に 4 両（野毛山動物園、久良岐公園、県警交通安全センター、市立中田小学校）が残るのみ。

（写真左：2015 年 8 月、右：2011 年 9 月）

団体名	新潟市新津鉄道資料館	〒956-0816 新潟県新潟市秋葉区新津東町２−５−６ ＴＥＬ　0250(24)5700　ＦＡＸ　0250(25)7808 E-mail：railwaymuseum@city.niigata.lg.jp URL：http://www.ncnrm.com/ 担当者：水澤　喜代志

◆新津鉄道資料館概要

昭和５８年，旧新津市が新津市鉄道資料館をオープンしました。平成１０年４月、旧国鉄から鉄道職員研修所「新津鉄道学園」を買い取り、改修し、２代目新津鉄道資料館としてオープンしました。平成１７年に新潟市との広域合併により「新潟市新津鉄道資料館」と改名され，平成２７年７月にリニューアルオープンしました。２００系新幹線、Ｃ５７形１９号機蒸気機関車，４８５系特急形電車，ＤＤ１４液体式ディーゼル機関車を静態保存しています。

当館は、新津地域の地域資源を地元とともに最大限活用する施設にしていきたいと考えています。そして、鉄道産業を「鉄道文化」として、新潟市の新たな魅力として、今まで以上に県内外の交流人口の拡大と誘客を図っていきます。

DD14 機関車と 485 系電車

◆施設概要

１．位置　　新潟市秋葉区新津東町２－５－６
２．交通　　信越本線新津駅下車，磐越自動車道新津ＩＣより２分
３．建物　　鉄筋２階建、延べ１，７６４㎡（屋外展示場除く）
５．展示品　約８００点
６．特色　　実物車両４両展示、鉄道運転シミュレータ，新潟・新津の鉄道の歴史展示　など。

◆平成２８年度事業

①７月～８月　特別展「日本海縦貫線～本州日本海側を結ぶ鉄道路線の今昔～」
大阪～青森間の日本海側を結ぶ在来線ルートの歴史や役割，現在の姿を紹介しました。毎週日曜日には当館学芸員による解説会を開催しました。

②７月　サンクスフェア　新津鉄道資料館を会場に感謝祭を実施しました。

③８月　特別展記念講演会
長浜鉄道スクエア名誉館長・米山淳一氏と鉄道博物館副館長・荒木文宏氏をお迎えし，日本海縦貫線についてお話を頂戴しました。

④8 月　親子鉄道模型教室
Ａ４サイズのジオラマ鉄道模型（Ｎゲージ）を親子で作る教室を開催しました。

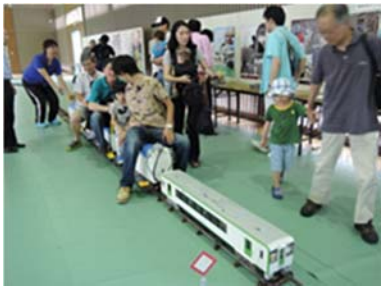
⑤１０月　鉄道の街にいつの「にいつまるごと鉄道フェスタ」と「向谷実の１日館長」
新津総合車両製作所・ＪＲ新潟支社・新津観光協会・新潟市と連携し「鉄道の街にいつ」地域まるごと鉄分高めのイベントを開催しました。同日，鉄道愛好家の向谷さんから「鉄道メロディライブ」「鉄道お宝トーク」を披露いただき，終了後は地元商店主や鉄道愛好家と楽しい懇親会を行いました。

⑥まちなか鉄道資料館
新津商店街に新津鉄道資料館収蔵大型資料を設置・展示しています。（Ｃ５７動輪・踏切警報機　ほか）

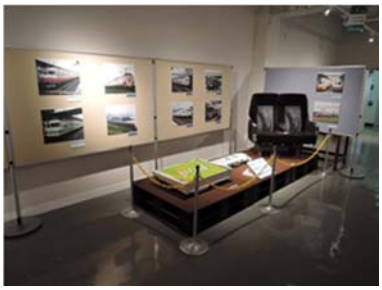
⑦巡回バス
新津駅，商店街，資料館を結んで巡回バスを運行しました。

⑧鉄道模型走行会
毎月，地元鉄道模型愛好団体と連携し，Ｎゲージ，ＨＯゲージの走行会を開催しました。

200 系新幹線と SLC57-19 号機



サンクスフェアでミニ列車運行



日本海縦貫線展示風景

団体名	上松町　赤沢森林鉄道 （経済産業省「近代化産業遺産群」一部認定）	〒399-5603 長野県木曽郡上松町駅前通り 2-13 Tel：0264-52-4804　　Fax：0264-52-1038 URL：www.avis.ne.jp/~hinoki Email：syoukan@town.agematsu.nagano.jp

2016 年、赤沢森林鉄道は、次の日程で運行しています。

（赤沢森林鉄道の運行状況）

○2016 年度運行日程

今シーズンは 4 月 29 日から 11 月 7 日まで軌道整備日を除いて毎日運行しています。

【運行時間】

土曜・日曜・祝日・夏季及び紅葉シーズン

9：30 から 15：30 の 30 分毎に 1 便運行。

※夏季イベント期には 9：00 便を増発

※上記以外の平日は 10：00 から 15：00 までの 1 時間毎に 1 便運行。

【乗車料金】

通常時：大人（中学生以上）800 円　小人（4 才から小学生）500 円

夏季イベント期：大人（中学生以上）1,000 円　小人（4 才から小学生）700 円 ※イベント参加料込み

【運行区間】

森林鉄道記念館前から丸山渡停車場　往復約 2.2ｋｍ　約 25 分

祝！「日本遺産（Japan Heritage）」認定

本年 4 月、文化庁「日本遺産（Japan Heritage）」に「木曽路はすべて山の中 ～ 山を守り 山に生きる ～ 」として、木曽地方のストーリーが認定されました。

「木曽路はすべて山の中 ～ 山を守り 山に生きる ～ 」は全 38 の文化財で構成され、その中には、「王滝森林鉄道」と「赤沢自然休養林」も含まれています。

（国産最古のトラス橋 鬼淵鉄橋とボールドウィン）

最盛期には総延長 500km を超えていた木曽森林鉄道。その中でも上松運輸営林署管内の小川森林鉄道と王滝森林鉄道は規模も大きく、また王滝森林鉄道は国内最後の森林鉄道として昭和 50 年に廃線となるまで、木曽谷の林業と地域住民の生活の一翼を担っていました。

赤沢自然休養林内にある「森林鉄道記念館」には小川・王滝森林鉄道で活躍した蒸気機関車・ボールドウィンが静態保存されており、往時の雄姿を間近で見学できます。

また、園内で観光用に運行している「赤沢森林鉄道」は小川森林鉄道の赤沢支線をそのまま利用したものです。ディーゼル機関車は新造したものですが、軌道などは当時のものをそのまま引き継いで利用していますので、「赤沢森林鉄道」は木曽森林鉄道の歴史遺産を実際に体験できる大変貴重なものです。

この様に赤沢自然休養林では、木曽の歴史遺産・『日本遺産』を間近に見る事ができ、また『日本遺産』森林鉄道への乗車体験もできます。この機会にぜひ一度、信州木曽・上松町 赤沢自然休養林「赤沢森林鉄道」へお越しください。皆様のご乗車お待ちしております。

伊豆修善寺　虹の郷

〒410－2416
静岡県伊豆市修善寺4279－3
(一財)伊豆市振興公社
TEL0558－72－7222
FAX0558－72－7133
E-mail　nijinosato2@vcs.wbs.ne.jp
URL　http://www.nijinosato.com/

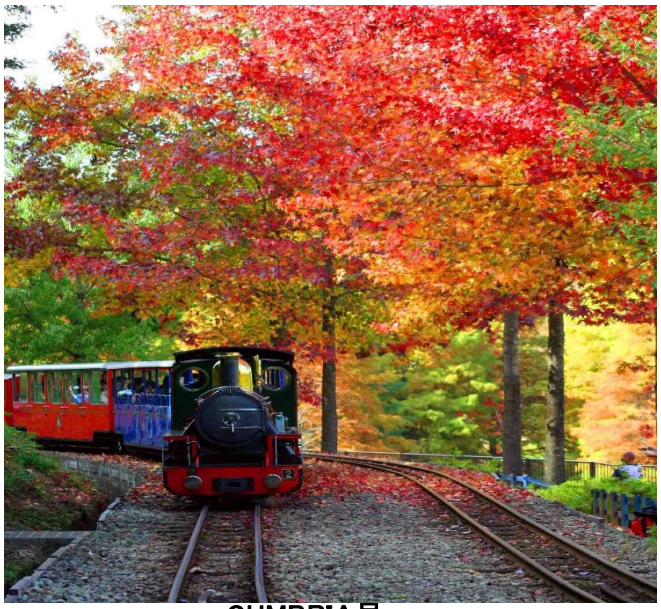
虹の郷ロムニー鉄道は一周2．4kmの周回線路にロムニー駅とネルソン駅を配置。
園内移動遊覧鉄道としての営業をおこなっております。
乗車料金

大人	（中学生以上）	1200円	大人	（中学生以上）	400円
小人	（4歳～小学生）	400円	小人	（4歳～小学生）	200円

ロムニー鉄道の特徴

イギリス製蒸気機関車2両と
ディーゼル機関車2両の計4両
を、日替わりで運行しています。

2編成営業時には蒸気機関車
とディーゼル機関車がすれ違う
タイミングがありまして、虹の郷
ロムニー鉄道の見どころとなって
おります。晴れた日には車窓から
富士山を望む区間があり、お客様
から喜びの声を頂けることも
あります。ぜひ、ご来園頂きまして
富士山の見えるロムニー鉄道へ
ご乗車ください。



CUMBRIA号

保有車両情報

蒸気機関車	NORTHRN ROCK Ⅱ	1－C－1	1989年製造
	CUMBRIA	1－C－1	1992年製造
ディーゼル機関車	JOHN SOUTHLANDO Ⅱ	B － B	1988年製造
	CITY OF BIRMINGHAM	0－C－0	1992年製造
展示機関車	ERNEST W TWINING	2－C－ 1	1949年製造
	C１１（金沢工業大学貸与）	1－C－2	1996年製造

団体名	大井川鐵道株式会社 OIGAWA－RAILWAY	〒428-8503 Tel：0547-45-4111　Fax：0547-45-4115 URL：http://oigawa-railway.co.jp Email：hiroyuki-ishikawa@oigawa-railway.co.jp 担当者：鉄道部　石川寛之

●３年目を迎えたトーマス号　今年はバーティも仲間入り

今年で３年目を迎えたトーマス号はジェームス号と共に快走しました。今年はバスのバーティも仲間入りし、小さなお子様から大人のお客様まで多くの方々に喜んでいただきました。

●黒の魅力

トーマス号の運転が始まり、２年目にはジェームス号も走り出しました。千頭にはヒロ、パーシーが並び、カラフルなトーマスワールドは年々拡大していますが、そのような中姿を変えず黒い姿で走っている機関車もあります。最近ではトーマス号やジェームス号と共存する中で貫禄さえ感じられる黒い蒸気機関車、もう一度注目してみてください。

●甲種蒸気機関車運転士養成のご協力

東武鉄道鬼怒川線でのＳＬ列車運行実施に向け、東武鉄道様よりご依頼を頂き、蒸気機関士養成のお手伝いをさせていただきました。東武鉄道から出向となった研修生のお二人は、昨年１２月より大井川鐵道新金谷乗務区配属となり、蒸気機関車の構造や準備方、運転方を始め、故障発生時の応急処置方、非常事態発生時の対応方等、毎日必死になって訓練を積まれ、今年の６月には見事、甲種蒸気機関車運転免許を取得されました。当社といたしましては約４０年かけて築き上げてきた蒸気機関車に関わる技術の継承と日光・鬼怒川地区の地域活性化に貢献したいという理由から、ご協力をさせていただきました。

■名古屋市 リニア・鉄道館

〒455-0848
名古屋市港区金城ふ頭 3-2-2
TEL　052(389)6100
http://museum.jr-central.co.jp/

○入館料
大人　1,000 円　（団体 800 円）
小中高生　500 円　（団体 400 円）
幼児（3 歳以上）　200 円　（団体 100 円）
※障害者手帳をお持ちのお客様と付添の方
大人 500 円、高校生以下 200 円

○休館日
毎週火曜日（祝日の場合は翌日）
年末年始／12 月 28 日～1 月 1 日
（※春・夏休みやＧＷは無休、
冬休みは 12 月 28 日～1 月 1 日を除いて無休）

○展示
鉄道車両 39 両＋バス 1 台、鉄道のしくみコーナー、
超電導リニア展示室、歴史展示室、鉄道ジオラマ、
シミュレータ、映像シアターなど

第 5 回企画展の開催状況

新幹線運転台の特別公開（300 系）

【2016（平成 28）年の記事】

○リニア・鉄道館開館５周年記念特別企画
須田相談役特別講演会（3/13）　０系新幹線との綱引き（3/19）
在来線シミュレータ「運転」無料開放（3/14～3/31）
子供パスポート（高校生以下対象の年間パスポート）発売（3/19～ ※完売済）
お仕事体験スペシャル 君も安全を支える新幹線運転士！（3/30,31）
リニア・鉄道館 5 周年特別展示（3/9～9/26）

○100 系新幹線 30 周年特別展示（H27 10/7～3/7）

○第 5 回企画展（3/16～9/26）
名古屋駅の 130 年　～東海道新幹線の開業、そして超電導リニアによる中央新幹線へ～

○運転台特別公開
0 系（4/1～4/18 の毎日、7/13～8/31 の毎日）　300 系（4/20～5/9 の毎日、9/1～9/30 の毎日）
100 系（1/16～2/28 の土休日、3/5,6,12,13,14,19,20,21,25～31、6/1～7/11 の毎日）

○ガイドツアー
新幹線の走るしくみ、止まるしくみ（H27 12/19～1/11）
在来線シミュレータ運転教室（1/23～2/28）
体験しよう！発見しよう新幹線車掌のお仕事（3/12,13,20,21,25～29、4/1～6、
4/9～24 の土日、4/29～5/8 の毎日）
クハ 111 および手動踏切ガイド（5/14～30 の毎日）
７００系新幹線をもっと知ろう！（7/13～8/31 の毎日）
超電導リニアの秘密を探ろう！（7/13～8/31 の毎日）　みどころガイド（開館日毎日）

○乗務員のお仕事紹介
新幹線運転士編（6/18,19,25,26）　在来線車掌（6/11,12）　駅係員（6/4,5）
新幹線車掌編（9/3,4,10,11）

○クイズラリー
新幹線の進化を学ぼう！等（通年の土休日）（※学校の長期休暇期間は毎日）

○各種イベント/展示の追加など
３代目名古屋駅の大時計復元展示（3/2～）　ミニトレイン運転（5/3,4,5）
きかんしゃトーマスショー(7/30,31)　30,000 人の写真展「鉄道のある風景部門」(8/20～8/28)

□車両展示の充実
オロネ 10 27　室内復元
キハ 48036　室内ガイド実施（動力機構音源再現）(7/23,24)

団体名	公益財団法人 **博物館　明治村**	〒484-0000　愛知県犬山市内山 1 番地 Tel：0568-67-0314　　Fax：0568-67-0358 URL：http://www.meijimura.com/ Email：masataka.kondou@nrr.meitetsu.co.jp 担当者：近藤 雅隆

＜蒸気機関車＞
〇㈱ジェイアール西日本テクノスによる車両点検を 3 ヶ月に 1 回実施。
〇蒸気機関車 12 号と蒸気機関車 9 号が 10 日間くらいの間隔で交互に動態展示を実施。

＜ハフ 11・13・14＞
〇㈱ジェイアール西日本テクノスによる車両点検を 3 ヶ月に 1 回実施。

＜京都市電＞
〇㈱ジェイアール西日本テクノスによる車両点検を 3 ヶ月に 1 回実施。

＜設備工事・点検＞
〇㈱メイエレックによる電路・電気設備点検を半年に 1 回実施。
〇矢作建設（株）による軌道点検整備を半年に 1 回実施。

＜動態展示物（蒸気機関車）を利用したイベント実績＞
・SL9 号・12 号 重連運転&プッシュプル運転
開催日／10 月 11 日(日)、25 日(日)
時間／12：35(SL 東京駅発)～15：55(SL 名古屋駅発)の SL 各発車時間
料金／SL 片道券 大人 500 円、小学生 300 円
内容／SL9 号(米製・明治 45 年輸入)と SL12 号(英製・明治 7 年輸入)が、東京駅→名古屋駅をプッシュプル運転、名古屋駅→東京駅を重連運転しました。。
・SL 転車体験
開催日／10 月 12 日(月･祝)、24 日(土)
会場／SL 東京駅・転車台
時間／①10：50～11：10 ②11：20～11：40 ③12：55～13：15 ④13：25～13：45
⑤13：55～14：15
定員／各回 6 名
内　容／重さ 20ｔ以上する SL の転車作業にチャレンジ！

SL プッシュプル運転

SL 重連運転

旧長浜駅舎・長浜鉄道文化館・北陸線電化記念館の総称

長浜鉄道スクエア
Nagahama Railway Museum

〒526-0057
滋賀県長浜市北船町１番４１号
（ＪＲ長浜駅から徒歩３分）

TEL.0749-63-4091
FAX.0749-64-0396
http://kitabiwako.jp/tetsudou/

名誉館長　米山淳一（日本鉄道保存協会　事務局長）
館　　長　藤田常信（公益社団法人長浜観光協会　事務局長）

旧長浜駅舎

明治１５年３月１０日、北陸線の始発駅として開業。現存する日本最古の駅舎です。

鉄道記念物　旧長浜駅舎

長浜鉄道文化館

長浜の鉄道文化を後世に伝える資料館。天井はヨーロッパのターミナル駅を模した木造アーチづくりです。ＨＯゲージのジオラマがありま

交流電気機関車のＥＤ７０の１号機

北陸線電化記念館

Ｄ５１形蒸気機関車と日本で唯一残る交流電気機関車のＥＤ７０の１号機を展示しています。

平成 27 年度　事業実績

年間入館者数　54,710 人（前年度 58,564 人）

【企画展】

アイデア記念切符展	６月１８日（木）～８月３１日（水）
ＳＬ北びわこ号運行２０周年記念特別写真展	６月１８日(木)～８月３１日（水）
清水薫写真展　春夏秋冬「鉄路の季節」	１月９日（土）～３月１３日（日）
なつかしの鉄道おもちゃ・絵本展	１月１６日（土）～３月６日（日）
真島満秀写真展	３月１９日（土）～５月８日（日）

平成 28 年度　事業予定

【企画展】

みんなの新快速電車	５月２８日（土）～７月５日（火）
おもちゃ鉄道模型展	７月８日（金）～９月３０日（金）
長浜と敦賀を結ぶ鉄道街道物語（直流化１０周年記念企画）	１０月２２日（土）～１２月２８日（水）
なつかしの絵葉書展	１月７日～３月末

公益社団法人長浜観光協会
〒526-8501 滋賀県長浜市八幡東町６３２番地
TEL.0749-65-6521　FAX.0749-64-0396
E-mail. kankou@city.nagahama.shiga.jp　http://kitabiwako.jp

団体名　特定非営利活動法人
貨物鉄道博物館

事務局（三岐鉄道株式会社内）
〒510-8014 三重県四日市市富田3丁目22-83
TEL:059-364-2141　E-mail:frm_office@yahoo.co.jp
URL:http://frm.kans.jp/

■2015年度の活動経過

2015年度は、11月の太平洋セメントFA・炭カル輸送25周年に合わせて、記念列車、企画展示などの記念事業を行った。
そのほか、新収蔵車タ2000形2001の塗装修繕を行った。

太平洋セメントFA・炭カル輸送
25周年記念列車
2015年10月29日

■2016年度の活動計画

2016年度は、2015年度に引き続き新収蔵車輌タ2000形2001の修復を行う。（既完了）

タム2000形2001　修復完了
2016年8月31日

◆2016年度定期開館日

2016年4月3日（日）、5月1日（日）、6月5日（日）、7月3日（日）、8月7日（日）、9月4日（日）、
10月2日（日）、11月6日（日）、12月4日（日）、2017年1月8日（日）、2月5日（日）、3月5日（日）

団体名	西日本旅客鉄道株式会社（JR 西日本）	〒　530-8341 Tel：　06-6375-2176 URL：　http://www.westjr.co.jp/ Email：　takuya-hirota@westjr.co.jp 担当者：　広報部鉄道文化推進室　杉山・廣田

京都鉄道博物館ついに開業！

本年 4 月 28 日、京都鉄道博物館を開業しました。翌 29 日にはグランドオープンを迎え、当日を心待ちにしていただいた約 14,300 名のお客様に新しい博物館をお楽しみいただきました。

京都鉄道博物館は旧梅小路蒸気機関車館の主要施設をほぼそのまま保存・活用しつつ、一体となる格好で 3 階建ての本館などを新たに建設しています。面積は約 3 万㎡（転車台、展示運転線を含む）で、国内最大級の鉄道系博物館です。鉄道の歴史や安全、技術を学べる「地域と歩む鉄道文化拠点」をコンセプトに、「見る、さわる、体験する」を重視した展示構成としています。

京都鉄道博物館では、0 系新幹線電車の第 1 号車など、歴史的な価値を持つ貴重な車両を 53 両収蔵・展示しています。そのうち蒸気機関車は展示車両の半数近くの 23 両を占め、うち 8 両が動態保存であることが、大きな特色です。　この動態保存の蒸気機関車が牽引する客車に乗車できる「SL スチーム号」も、旧梅小路蒸気機関車館から継続して取組んでいます。

さらに、京都鉄道博物館に隣接し、蒸気機関車を管理・保守する当社の梅小路運転区に「SL 第 2 検修庫」を新設しました。吊荷重 60t の大型天井クレーンを設置し、これまで梅小路運転区のみでは作業できなかった蒸気機関車のボイラーの取り外しや検査ができるようになり、蒸気機関車の保存や技術継承をより効率的に、永く続けていくことができるようになりました。また蒸気機関車の整備の様子をデッキからお客様に見学していただけるようにしました。

今年は 7 件の「登録鉄道文化財」を選定しました。

JR 西日本は、日本国有鉄道から継承し管理保存している事物を含め、「鉄道記念物」9 点、「準鉄道記念物」13 点を保存しています。また、当社発足後に「登録鉄道文化財」という制度を作り、大切な鉄道文化遺産を保護する取組みを行っています。

「登録鉄道文化財」は、将来「鉄道記念物」「準鉄道記念物」として指定される可能性を有する事物の中から指定したもののことで、今年度に 7 件追加で指定し、現在 113 点が指定されています。

今年登録した「登録鉄道文化財」の一部をご紹介します。

桂川橋りょう

津山まなびの鉄道館車両群

団体名	公益財団法人 **交通文化振興財団**	公益財団法人交通文化振興財団事務局 〒531-0011 大阪市淀川区西中島 7 丁目 1 番 26 号 オリエンタル新大阪ビル 201 号 Tel：06-6309-5113 Fax：06-6309-5114

京都鉄道博物館
kyoto railway museum

〒600-8835
京都市下京区観喜寺町
[TEL] 075-323-7334
http://www.kyotorailwaymuseume.jp

本年４月 29 日に京都鉄道博物館は、グランドオープン致しました。
交通文化振興財団は、西日本旅客鉄道株式会より委託を受け、当館の運営を行っています。
当館は、基本コンセプトを「地域と歩む鉄道文化拠点」とし、技術史的・社会史的に意義深い 53 両の実物車両を中心に鉄道を様々な視点から紹介しています。
また、地域の教育機関や周辺施設との連携を図り、地域の活性化に貢献します。

博物館開設のために移設した車両はすべて整備を終え、来館者をお迎えしています。

▲左から 500 系 521 形、クハネ 581 形、クハ 489 形

▲情景展示「昭和乃駅」内に展示しているキハ 81 形

公益財団法人
交通文化振興財団

当財団では、交通に関する様々な資料を収集・保存しています。
また、鉄道車両をはじめ、橋りょうやトンネルなどの交通に関する歴史的な事物について現地調査を実施しています。

▲旧大社駅

▲神戸駅貴賓室

団体名	加悦ＳＬ広場 宮津海陸運輸㈱	〒629-2422 京都府与謝郡与謝野町字滝941-2 TEL 0772-42-3186 FAX 0772-42-5300 URL http://www.kyt-net.jp/kayaslhiroba/

近 況

■ 123号(加悦鉄道2号)蒸気機関車 外装関係の修復を実施中

加悦鉄道の創業時より加悦鉄道の顔として活躍した蒸気機関車

123号 蒸気機関車(重要文化財)

明治6年6月 Rt.Stephenson製(英国)。関西で最初に開通した大阪－神戸間で活躍し陸蒸気(おかじょうき)の名で親しまれていた。文明開化と共に日本鉄道の黎明期を支えた機関車です。明治45年鉄道院時代に「123号」に番号変更大正15年10月、加悦鉄道の創業に伴い購入。加悦鉄道の2号機となりました。

昭和12年頃の写真

■ フハ2木造客車、DB201ディーゼル機関車の修繕を修理庫で並行して実施中

■ 東宝「海賊とよばれた男」の撮影がSL広場で行われました。(H28.12.10 ﾛｰﾄﾞｼｮｰ)

(車両修理庫、ハ10木造客車 他 昨年平成27年11月の撮影準備の様子)

■ 加悦鐵道保存会 協力のもと、ライブスチーム運行を各月に実施

■ 平成27年11月SL広場「周年祭」 及び 平成28年5月「初夏の加悦鉄道まつり」を開催

■ 平成28年度 SL広場「周年祭」 平成28年11月 6 日(日) 開催予定

※再現列車乗車会ほか、与謝野町近隣団体等との連携イベント「滝・金屋地区 秋の大感謝祭 」共催

今後も車両等の修復を通し、加悦鉄道の歴史・鉄道文化遺産の保存維持に取り組んで参ります。

特定非営利活動法人

加悦鐵道保存会

〒629－2403
京都府与謝野町加悦433番地　旧加悦鉄道加悦駅舎
TEL/FAX　0772(43)0232
HP　http://kayatetsu.web.fc2.com/

■2015年10月～2016年9月までの主な活動

「周年祭」「初夏の加悦ＳＬまつり」
『加悦鉄道再現列車』を運転

きものでぶらり♪ちりめん街道
協賛出展・夜間撮影会実施

加悦鉄道資料館にＣ１０コンテナ搬入
国鉄時代のコンテナ3形式が勢揃い

○　2016年10月現在、会員数は48名、年齢は8歳から76歳と幅が広いですが、自分が出来る範囲内で楽しみながら活動しています。

○　ホームページのご案内
より詳しい作業状況やイベント情報、オリジナル商品の情報が満載です。
http://kayatetsu.web.fc2.com/

関西学院大学　鐵道研究会
夏季合宿受入

ＤＢ２０１ディーゼル機関車
整備作業に協力

片上鉄道保存会

〒576-0034　大阪府交野市天野ヶ原町 2−39−2
TEL: 0868-62-7155 (柵原鉱山資料館)
katatetsu-hozonkai@okayama.email.ne.jp
http://www.ne.jp/asahi/katatetsu/hozonkai/

【当会の概要】

岡山県美咲町旧吉ヶ原駅を中心に主に活動している団体です。
会員分布は埼玉県～福岡県にあり、毎月の展示運転では1～3 両編成を組み、
吉ヶ原ー黄福柵原駅間にて毎月第一日曜日に展示運転を実施しています。
最近タブレット閉塞方式に変更し、各駅での増解結、臨時増発を行うことで需要に則した効率的な運用を行っています。おかげさまで25周年をまもなく迎えることができそうです。

【当会の抱える現在の課題】

・現状に則した形への組織調査と組織改変
・旧国鉄キハ 04 型303号が6月より機関故障中につき 11 月を目処に運用復旧
・第一種機械連動装置の復旧と実用（美作飯岡方面をスタフ閉塞化して列車扱いに）
・吉ヶ原亘線を電気保障し、副進出経路を確保することで21号分岐故障に備える
・特殊発光信号機等、保安システムの導入と、常設化活動
・黄福柵原駅　4 両＋1 両対応化工事推進中。多客に備え、建設計画を達成する。
・吉ヶ原　花見踏切　合成枕木化工事を 3 年計画で開始
・車体の老朽化、雨漏りが深刻であり、大規模な車体修繕が課題

【本年達成したこと】

・ダイヤ改正　黄福柵原直通を定期2→5往復に増発
・子供用無料会員証製作と運用
・女性機関士の登用／閑散列車の 3 人→2 人乗務体制の実現による地上強化と合理化
・吉ヶ原第 7 踏切半自動化（吉ヶ原第 5 踏切との相互時素連動と接近ブザー設置）
・枕木交換年間 80 本達成（分岐25本　並55本）
・高性能化学物質の積極的利用（液体ガスケット　燐酸塩酸化還元材等）
・コンクリート型枠工／ロウ付け加工等の会員の持つ技術供与による基礎技術向上
・近隣団体との実働作業交流（下津井みなと電車保存会下津井駅にて分岐器組立作業）
・DD13＋FC3＋PC1＋DC1での汽笛合図によるプッシュプル運転実施による駅間長編成
　対応と駅間操車誘導での推進運転の解消、推進運転時の操車中継要員の解消
・次発発車時刻表示機の運用（黄福柵原　プラズマディスプレイ 50 インチ）
・12:30に保存会会員が近隣のお寺の鐘をつき安全を祈願する。
・会員証で近隣ガソリンスタンドが￥5／L 引きになる等、地域連携・温泉連絡会員証発行

【今後の課題】

・現在抱えている課題を達成する。
・各担当が専門・専業化する傾向のため、複数持場へ対応できるよう養成を実施。
・DD13機関士が不足しているため APK 各動作弁混結編成を運転できる機関士を養成。
・津山駅扇型庫にまなびの館が開館し、来園者が増え美咲町町づくりへの積極的関与。
・客車運転は準備・当日に要員を要するので客車運転に理解ある方を募りたい。

西の丘陵地より展示運転線全線を望む
鉱山資料館をバックに降車中の
27列車と貨物運搬中の混合 28 列車
この日の積荷はミニパワーショベル
全線33．8kmのうち約1／80を保存
第一日曜日を中心に展示運転を実施

～月に一日汽車が来る駅、吉ヶ原駅～　　～思い出を未来へ～　片上鉄道保存会

若桜駅を元気にする会

〒680-0701
鳥取県八頭郡若桜町若桜801-5
若桜町役場ふるさと創生課内
TEL0858-82-2231FAX0858-82-0134
e-mail:furusato@town.wakasa.tottori.jp

2016年度の取り組み

蒸気機関車(C12-167)やディーゼル機関車(DD16-7)の運転体験、トロッコ列車(元長野電鉄無蓋車ト6)の乗車体験、旧国鉄12系客車(オロ12-9、スロフ12-3、スロフ12-6)を団体客の食事処、休憩場所として提供するなど、若桜駅周辺は多くの観光客で賑わっています。
若桜駅を元気にする会では、若桜駅構内の美化清掃活動、駅周辺で開催されるイベントへの協力などにより、若桜駅と沿線地域の振興に取り組んでいます。

【SL・DL運転体験】
場　所:若桜駅構内　SL走行線
内　容:実務講習(運転取扱及び車両の構造を図面、写真で講習)
　　指導講習(主任運転士による見本運転　1往復)
　　体験運転(教官がついての実車運転　2往復)
料　金:10,000円～
開催日:SL　4・6・8月の第3土曜日・10月の第4土曜日
　　DL　5・7・9・11月の第3土曜日
その他:事前のお申し込みが必要です。詳しくは若桜鉄道(株)にお問い合せください。

【SL走行日】
場　所:若桜駅構内
料　金:入構料300円、トロッコ乗車体験200円
開催日:4月～11月の第2・4日曜日、5月のゴールデンウィーク、お盆

ＳＬ（C12-167）運転体験

恋の日（5月1日）イベント協力
（ピンクＳＬお披露目）

今後の取り組み

若桜駅構内の美化清掃活動、駅周辺で開催されるイベントへの協力など沿線地域の活性化に積極的に取り組みます。
また、本来の目的である観光列車の運行実現に向け、関係機関との連携を強化し、調査・研究・要望活動を継続して行います。

NPO法人 市民文化財ネットワーク鳥取

〒680-0022　鳥取県鳥取市西町1－106
TEL：0857-26-1151　FAX：0857-22-4103
E-mail: wako106@theia.ocn.ne.jp

組織の目的

歴史遺産は、心の支えです。生活を豊かに楽しくします。市民文化財ネットワーク鳥取は、鳥取の歴史遺産を見直し、調査し、修復・保全・技術伝承を目指し、かつ観光資源を活用しながら鳥取らしさを創造する団体です。2004 年4 月にNPO 法人となりました。会員数80名

今年度の主な活動

・若桜町つくよねに、整備した燻蒸茅の生産システムがほぼ軌道にのり、県内の文化財修理に使っていただいている。今後さらに、若桜鉄道沿線の茅葺屋根の復活を目指している。

・景観まちづくりセミナーにおいて若桜鉄道の終着駅「若桜」の若桜宿の伝統的な建造物を中心とした整備計画を提案し、調査と整備が行われた。

・江戸初期の中心の仮屋と水路の商家通りを挟んで蔵通りで護られた寺通りと旧武家町という明確なゾーン分離が明治期の火災によって宿議会で決められた都市計画によって再整備され、昭和 5 年に整備された鉄道と各時代の歴史を感じさせる町並みの整備。

・鳥取市内をはじめ若桜鉄道と連携可能な、鉄道資源を発掘し可能性について検討。
鳥取駅の直ぐ脇には明治 41 年に米子―鳥取間の山陰本線開通時に建てられた駅舎など駅構内施設が移築保存されているが、保護が十分でなく、貴重な歴史遺産が十分に活かされていない。この惨状に目を向け、保存の意義を思い起こし、保存に力を入れるよう働き掛けている。

鉄道記念公園

鳥取駅旧駅舎は全 国でも珍しい双頭レールのホーム上家、ならびに使用 年代を刻んだ跨線橋橋脚柱（門柱、照明燈柱に使用） 等鉄道の歴史を知る貴重な諸物件が使用されており、 これの保存方を多くの市民の方々の強い要望により、 これを展示し、末長く後世に伝えるとともに、児童生 徒の教育に資することを目的としてこの鳥取鉄道記念物公園を設置した。

双頭レールで造られた明治 41 年当時鳥取駅舎

団体名	山口線ＳＬ運行対策協議会	〒753-8501 山口県山口市滝町1-1　観光プロジェクト推進室内 Tel：　083-933-3204　Fax：　083-933-3179 URL：　http://www.c571.jp/ Email：　c571@c571.jp 担当者：　小嶋　洋一

《本用紙の範囲内で、活動報告をご自由にお書きください》

幕末維新やまぐちデスティネーションキャンペーンに向けたおもてなしの強化

幕末維新やまぐちデスティネーションキャンペーンの開催に併せて、平成 29 年９月にＳＬ全盛期の旧型客車を復刻した客車が新製・投入され、平成 29 年度以降にD51 形蒸気機関車の本線復活運転も予定されるなど、ＳＬ「やまぐち」号の魅力がますます高まります。

この好機を逃すことなく、ＳＬ「やまぐち」号に、より多くのお客様に御乗車いただけるよう、取り組んでいきます。

◆ＳＬ「やまぐち」号の概要

〔平成 28 年運転期間〕

平成 28 年３月 20 日～11 月 20 日の土日祝日を中心に運行（84 日間）

〔運転区間〕

新山口駅（山口県山口市）⇔津和野駅（島根県津和野町）

※１日１往復

〔運転時間〕

新山口駅：10 時 48 分発～津和野駅：12 時 58 分着

津和野駅：15 時 45 分発～新山口駅：17 時 30 分着

【近況報告】

◆ＳＬ「やまぐち」号復活運転 37 周年記念イベントの開催

イベントでは、新山口駅での記念式典では、観光パフォーマンスユニット「やまぐち奇兵隊」が登場し、会場を盛り上げました。

また、山口線の主要駅において、地域団体によるおもてなしを行いました。また、山口県立大学の学生がレトロな衣装を身に着け、ＳＬアテンダントとして、おもてなしを実施しました。

イベント出演者による写真撮影

◆ＳＬギャラリーの開催

ＳＬギャラリーでは､平成 29 年度以降にＳＬ「やまぐち」号として本線運転復活が予定される「Ｄ５１（デゴイチ)」の大規模修繕の模様を収めた映像作品とこの夏２年ぶりに運行された重連運転の様子を収めた映像作品を上映しました。

また、山口会場では、平成 29 年９月頃新製・投入される新型客車風ディスプレイを展示しました。

その他ＳＬに関わる貴重なコレクションを多数展示しました。

貴重なコレクション

愛媛県西条市

鉄道歴史パーク in SAIJO

〒793-0030
愛媛県西条市大町 798-1
TEL0897-52-1446　FAX0897-53-6200
鉄道歴史パーク in SAIJO 検索

四国鉄道文化館へようこそ

愛媛県西条市の JR 伊予西条駅隣にある**四国鉄道文化館**には、合計 6 両の貴重な実物車両を展示しています。北館には「0 系新幹線電車」と「DF50 形ディーゼル機関車 1 号機」を展示。ともに運転席を常時開放し、運転士気分が味わえます。

北館に並んで展示する 0 系新幹線と DF50 1

C57 44 号機ほか展示車両が充実

南館には、C57 形蒸気機関車、キハ 65 形急行用気動車、DE10 型ディーゼル機関車、フリーゲ―ジトレインの 4 車両を展示。また、四国の沿線風景の 1 日を再現した演出走行が人気の鉄道模型レイアウトは見ごたえじゅうぶんです。このほか、鉄道標識や信号機、車両の動輪の実物など、鉄道文化を楽しく学べる展示内容となっています。

C57 44

キハ 65 34

ＤＥ10 1

南館外観とフリーゲージトレイン

第 4 代国鉄総裁・十河信二氏ゆかりのまち「西条市」

「新幹線の生みの親」とも言われる十河信二氏は、西条市長も務めた「名誉市民」でもあります。市ではパーク内に**「十河信二記念館」**を整備し、「夢の超特急」東海道新幹線の開通に尽力した氏の功績と人間的な魅力を紹介しています。

十河信二氏胸像（十河信二記念館展示）

多彩なイベントを開催中！

四国鉄道文化館では、総延長 235mのミニ SL 用軌道を常設しており、年数回開催の乗車会はちびっこ達で大賑わいです。このほか、駅長の仕事を学んだり、普段は立入りできない駅構内を見学できる夏休みの人気企画「西条駅たんけん」では、大正 10 年開業当時から駅構内に残るレンガ造りの「給水塔」や、「カーバイト庫」を間近に見ることができます。

今後も楽しいイベントを計画しています。

四国鉄道文化館“てつぶん”へお越しください！！

大人気のミニＳＬ乗車会

給水塔を間近に見学

てつぶん 6 姉弟（きょうだい）

【鉄道歴史パーク in SAIJO】

JR 伊予西条駅隣の「鉄道歴史パーク in SAIJO」。パーク内には「四国鉄道文化館 北館」「四国鉄道文化館 南館」「十河信二記念館」「観光交流センター」の 4 つの施設があります。

〇開館時間：9 時～18 時（最終入館 17：30）　〇休日：水曜日（観光交流センターは無休）

〇入館料：（四国鉄道文化館　両館共通）大人 300 円、小中学生 100 円、幼児無料、各種割引有

馬路村 魚梁瀬（やなせ）森林鉄道

〒781-6202
高知県安芸郡馬路村大字魚梁瀬 10-11
馬路村役場魚梁瀬支所
TEL：0887-43-2211　FAX：0887-43-2208
E-mail：yanase@mb.inforyoma.or.jp
URL：http://www.umajimura.jp/

古くから高知の林業は栄えてきました。県内の多くの木材が朝廷奉納や幕府献上として活用されていた記録が古い文書に残されています。

特に銘木、魚梁瀬杉で知られるように森林資源に恵まれた馬路村では、木材搬出のため、明治４４年に、国内３番目の森林鉄道として、馬路から田野間を結ぶ森林鉄道が開通しました。その後、馬路から魚梁瀬まで延長され、大正６年には本線終点の石仙まで軌道が延びました。やがて奈半利川沿いにも軌道が敷かれるようになり、総延長２５０km といわれる県内最大級の森林鉄道となりました。

しかし、昭和３２年、魚梁瀬ダム建設に伴い森林鉄道の廃止が決定しました。３３年から軌道の撤去がはじまり、３８年に安田川線の撤去が完了し、惜しまれながら廃線されましたが、現在でも、当時の面影を残す隧道や橋梁跡などが点在し、人々の生活の中に残っています。

その繁栄を遂げた魚梁瀬森林鉄道の遺産として、平成２１年に橋梁や隧道など１８箇所（馬路村内では４箇所）が国の重要文化財の指定をうけました。同年には経済産業省の近代化産業遺産群にも９基（馬路村内では２基）が認定されました。広域（馬路村を含めた中芸５ヵ町村）で国の重要文化財の指定をうけるのは、我が国初のことです。

現在、貴重な観光資源としても活用され、林鉄は馬路村に多くの観光客を集めています。

日本遺産認定に向けた取り組みが始まっており、森林鉄道の遺構が残る中芸５ヵ町村で連続講演会が予定されています。

●馬路森林鉄道

実物の３分の２の大きさに復元された森林鉄道。安田川支流の西谷川沿いに線路が敷かれ、約３００m の周回コースを走ります。

◎場所／馬路村馬路　馬路温泉前
◎運行日／日、祝日 8 時 30 分～16 時
［８月は毎日運行］
◎料金／乗車大人４００円など
◎お問い合わせ／馬路温泉
TEL:0887-44-2026

●魚梁瀬森林鉄道

魚梁瀬ダム湖が見下ろせる丸山公園に、復元された森林鉄道があります。指導を受けながら運転することができる「運転手体験」メニューもあります。

◎場所／馬路村魚梁瀬　丸山公園内
◎運行日／日、祝日 10 時 00 分～12 時、13 時～15 時 30 分
［８月は土曜も運行］
◎料金／乗車大人４００円、運転体験１，０００円など
◎お問い合わせ／馬路村役場魚梁瀬支所
TEL:0887-43-2211

北九州線車両保存会
KITAKYUSHU LINE TRAM SOCIETY

お問い合わせ
〒818-0071
福岡県筑紫野市二日市西３丁目 12-1-2F
080-6412-1666　代表 手嶋 康人
E-mail teshi729@yahoo.co.jp
FacebookID 350000081873979

2016年活動報告

148号　門司港レトロ３月中旬～11月末　毎週日曜公開
621号　324号　かしい花園毎週土日祝日公開　12月より休演

148号全塗装　２～４月

北九州市門司港レトロで保存中の148号全塗装を実施。
北九州市より塗料及びパテなど資材を支給。
保存会で作業を実施。

西日本鉄道北九州線621号（所有）香椎花園内レトロ電車パーク

西日本鉄道北九州線324号（所有）香椎花園内レトロ電車パーク

西日本鉄道北九州線148号（管理）門司港レトロ駐車場

西日本鉄道福岡市内線507号（所有）筑前山家駅構内（JRより借地）

京都鉄道博物館

日 本 鉄 道 保 存 協 会

〒100-0005　東京都千代田区丸の内 3-4-1　新国際ビル 903 号
公益財団法人交通協力会気付
電話: 03-6269-9808　FAX: 03-6269-9809
URL: http://www.rpsj.jp
Email: rpsj.tetsudo.hozon@gmail.com

表紙・裏表紙写真：米山淳一